

2021 年度授業評価アンケート実施報告

【はじめに】

2021 年度のアンケートは、Web 回答方式に変更して 2 年目の実施となりました。

新型コロナウイルス感染症の影響が続いた今年度も皆様のご協力のもと、滞りなく実施することができました。

一方で、アンケートの回収率は低く、学部・看護栄養学研究科で前期 62.0%、後期 35.3%、助産研究科で前期 35.2%、後期 9.1%となりました。

それぞれの教育内容・方法のさらなる改善のために、アンケートの回収率を上げることにについては課題と考えています。

最後に、授業評価アンケート実施にあたりご協力いただきました多くの学生、教職員の皆さまに心よりお礼申し上げます。

【アンケート実施の目的】

学生による授業評価アンケートは、学生の視点から授業改善の手がかりを探り、個々の授業改善につなげることで教育の質を向上させることを目的とする。

【アンケートの概要】

1. 実施方法

原則、全科目を対象とし、授業最終日にアンケート方式により実施した。ただし、匿名性担保のため、履修人数が 10 名以下の科目は対象外とした。

2. アンケートの回答方法

T-navi にログインし、Web 上で回答する方法とした。

3. アンケート設問項目

1) 講義、演習用

(1) 学部、大学院看護栄養学研究科：選択式 12 問及び自由記載（「良かった点」「改善してほしい点」「その他、授業に関する意見・要望」）

(2) 助産研究科：選択式 15 問及び自由記載（「良かった点」「改善してほしい点」）

2) 臨地実習用

(1) 学部、大学院看護栄養学研究科：選択式 9 問及び自由記載（「良かった点」「改善してほしい点」「その他、授業に関する意見・要望」）

(2) 助産研究科：実習科目ごとに助産研究科で検討し、毎年度 4 月の FDSO 委員会で承認する。

4. アンケート結果の集計

アンケート集計表の作成は、日本通信紙株式会社に委託し、前期と後期・通年科目と分

けて修正した。

1) 設問項目別回答分布表 :

人数、選択肢ごとの平均、前期又は後期開講科目全体の平均

2) 回答分布 : 100%積み上げ縦棒グラフ

3) 評価レーダーチャート :

選択肢ごとの平均、前期又は後期開講科目全体の平均

その他、アンケート結果の解釈・判断のため、「回収率」を表示する。

4) アンケートに対する科目責任者のコメントについて

科目責任者のコメント欄は、「自由記載に対するコメント」及び「結果全体に対するコメント」欄に分け、「結果全体に対するコメント」欄は、全科目責任者が記載することとした。

「自由記載に対するコメント」は、回答が必要と科目責任者が判断した内容について抽出し、その回答とあわせて記載した。なお、自由記載は学生には公開されないため、コメントを記載する際は、どんな意見であったかも必ず記載する。

記載にあたっては、Excel 版の集計表を事務局から科目責任者にメールで配信し、それぞれの欄に入力して返信する方法をとった。

5. アンケート集計速報の閲覧について

Web 方式となったことに伴い、回答期間終了後すぐに、学生は自身の履修科目の集計結果（グラフ）を、教員は自身の担当科目の集計結果及び自由記載が閲覧可能となった。

6. アンケート結果の公表

- 1) 科目ごとの PDF ファイルを、教職員には学内 LAN 掲示板、学生には GoogleDrive に掲載して公開する。
- 2) 科目責任者が非常勤講師の場合は、FSDS 委員会事務局担当からメールで配付する。

【アンケート質問項目】

学部、大学院看護栄養学研究科 講義・演習用（選択肢 12 問、自由記載 3 問）

	質問項目	評価の選択肢
①	授業概要を読んで科目の概要、目標が理解できた	①理解できた ②ある程度理解できた ③あまり理解できなかった ④理解できなかった
②	授業の評価方法は適切だった	①適切だった ②ある程度適切だった ③あまり適切ではなかった ④適切ではなかった
③	授業は、授業概要の計画通りに進められた	①計画通りだった ②ある程度計画通りだった ③多少計画とは違った ④計画とは違った
④	教材、参考文献の提示は適切だった	①適切だった ②ある程度適切だった ③あまり適切ではなかった ④適切ではなかった
⑤	授業の方法（グループワーク、演習、視聴覚教材等の活用）は適切だった	①適切だった ②ある程度適切だった ③あまり適切ではなかった ④適切ではなかった
⑥	教員は学生の質問・発言に適切に応答していた	①適切だった ②ある程度適切だった ③あまり適切ではなかった ④適切ではなかった
⑦	授業で要求される作業量（レポート、課題など）は適切であった	①適切だった ②ある程度適切だった ③あまり適切ではなかった ④適切ではなかった
⑧	授業の内容を理解できた	①理解できた ②ある程度理解できた ③あまり理解できなかった ④理解できなかった
⑨	授業によって、自分の考えを深めることができた	①深めることができた ②ある程度深めることができた ③あまり深めることができなかった ④深めることができなかった
⑩	授業によって、さらに学びを広げたいと感じた	①広げたいと感じた ②ある程度広げたいと感じた ③あまり広げたいと感じなかった ④広げたいと感じなかった

⑪	1回の授業に対してどの程度予習・復習（課題を含む）を行いましたか	①3時間以上 ②2時間以上3時間未満 ③1時間以上2時間未満 ④30分以上1時間未満 ⑤30分未満
⑫	授業全般を通し、この授業に満足した	①満足した ②ある程度満足した ③あまり満足しなかった ④満足しなかった
⑬	この授業について、良かった点を記載してください。	
⑭	この授業について、改善してほしい点を記載してください。	
⑮	その他、この授業に関する意見・要望があれば記載してください。	

学部、大学院看護栄養学研究科 臨地実習用（選択肢9問、自由記載3問）

	質問項目	評価の選択肢
①	オリエンテーションの内容は適切でしたか	①適切だった ②ある程度適切だった ③あまり適切ではなかった ④適切ではなかった
②	この科目における実習の目的や目標は明確でしたか	①明確だった ②ある程度明確だった ③あまり明確ではなかった ④明確ではなかった
③	教員や指導者は、学生を尊重し、真剣に関わりましたか	①関わった ②ある程度関わった ③あまり関わらなかった ④関わらなかった
④	教員と指導者は、連携をとりながら指導しましたか	①連携していた ②ある程度連携していた ③あまり連携していなかった ④連携していなかった
⑤	実習課題や記録物の量は適切でしたか	①適切だった ②ある程度適切だった ③あまり適切ではなかった ④適切ではなかった
⑥	教員や指導者に相談や質問ができる体制が整っていましたか	①整っていた ②ある程度整っていた ③あまり整っていなかった ④整っていなかった
⑦	実習に使用する教材、参考文献の提示は適切だった	①適切だった ②ある程度適切だった ③あまり適切ではなかった ④適切ではなかった
⑧	あなたは、実習に積極的に取り組みましたか	①十分にできた ②ある程度できた ③あまりできなかった ④できなかった
⑨	あなたは、実習の目標を達成できましたか	①達成できた ②ある程度達成できた ③あまり達成できなかった ④達成できなかった
⑩	この授業について、良かった点を記載してください。	
⑪	この授業について、改善してほしい点を記載してください。	
⑫	その他、この授業に関する意見・要望があれば記載してください。	

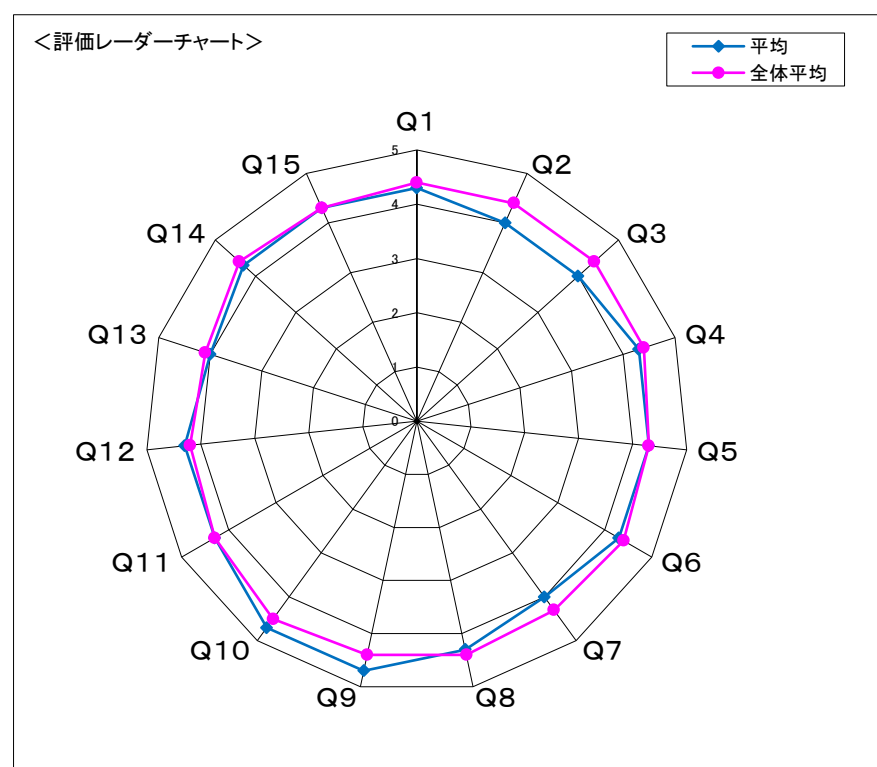
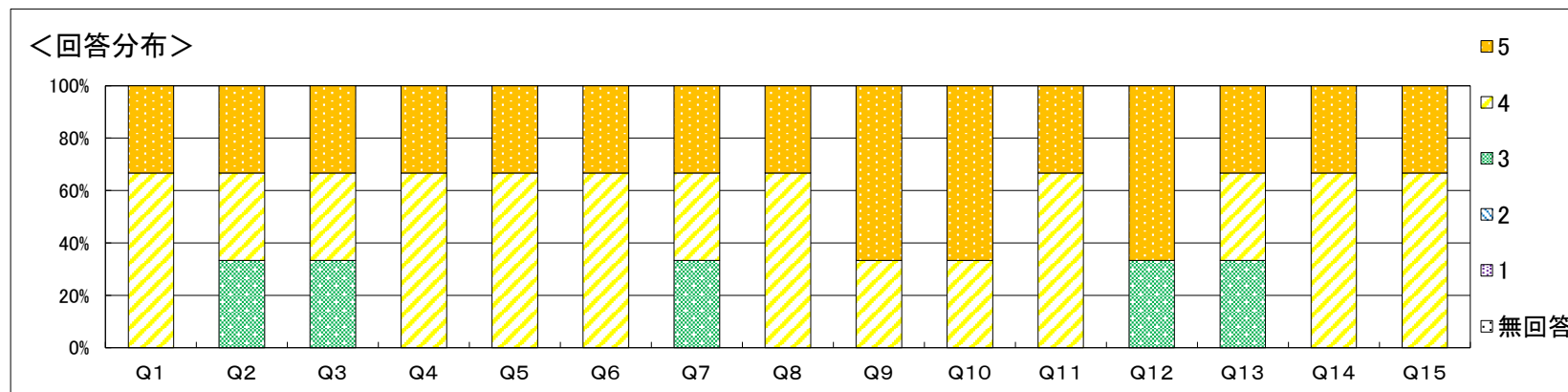
とてもそう思う（４）、ある程度そう思う（３）、あまりそう思わない（２）、そう思わない（１）

①	シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた。
②	授業の構成は体系的に行われていた。
③	授業の時間数は適切だった。
④	授業の進行は適切だった。
⑤	授業方法、形態（対話・討論型授業、ワークグループなど）は適切だった。
⑥	視聴覚教材（黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど）は理解の促進に効果的だった。
⑦	授業内容はわかりやすく説明されていた。
⑧	授業で要求される作業量（レポート、宿題など）は適切だった。
⑨	教員は効果的に院生の参加（発言、自己学習、作業など）を促した。
⑩	教員は院生の質問・発言等に適切に対応した。
⑪	自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した。
⑫	自分は指定図書を活用し、授業に参加した。
⑬	自分は授業の事前・事後学習（課題を含む）を行った。
⑭	自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた。
⑮	自分は授業の履修目標は達成できた。
⑯	この授業について、良かった点を記載してください。
⑰	この授業について、改善してほしい点を記載してください。

科目名	(500001) 4000012F11100100 助産学概論		
学科	助産研究科	履修者数	16人
学年	基礎1年	回収数	3人
必修・選択の別	必修	回収率	18.8%

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	1	2	0	0	-	0	4.3	4.4
2. 授業の構成は体系的に行われていた	1	1	1	0	-	0	4.0	4.4
3. 授業の時間数は適当だった	1	1	1	0	-	0	4.0	4.4
4. 授業の進行は適切だった	1	2	0	0	-	0	4.3	4.4
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	1	2	0	0	-	0	4.3	4.3
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	1	2	0	0	-	0	4.3	4.4
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	1	1	1	0	-	0	4.0	4.3
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	1	2	0	0	-	0	4.3	4.4
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	2	1	0	0	-	0	4.7	4.4
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	2	1	0	0	-	0	4.7	4.5
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	1	2	0	0	-	0	4.3	4.3
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	2	0	1	0	-	0	4.3	4.2
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	1	1	1	0	-	0	4.0	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	1	2	0	0	-	0	4.3	4.4
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	1	2	0	0	-	0	4.3	4.3



自由記載に関するコメント
自由記載なし

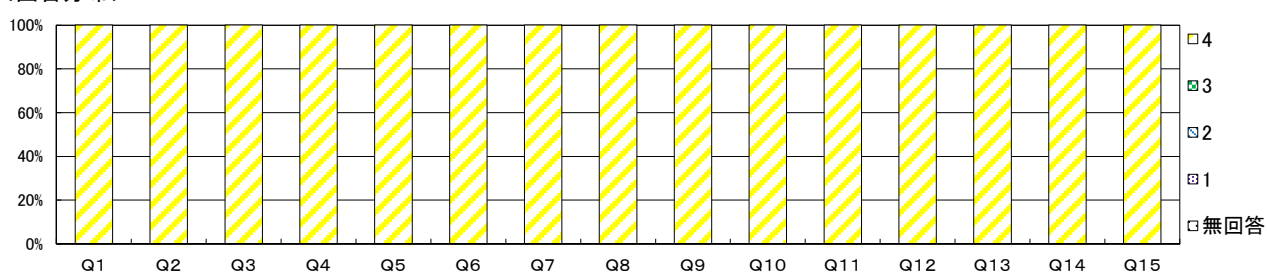
結果全体に対するコメント
授業最終日の時間内に回答していただく前に、後での回答依頼となってしまったためか、3名のみで何とも言えない。3名とも、新しい知識が修得でき、履修目的は達成できたとしている点は良かった。今年度は、実習前後で時間をおいての授業が組まれることとなってしまったため、次年度は効果的な授業構成を考えて行っていきたい。

科目名	(500018) 40000172F11100200 助産哲学・倫理 I		
学科	助産研究科	履修者数	16人
学年	1	回収数	1人
必修・選択の別	必修	回収率	6.3%

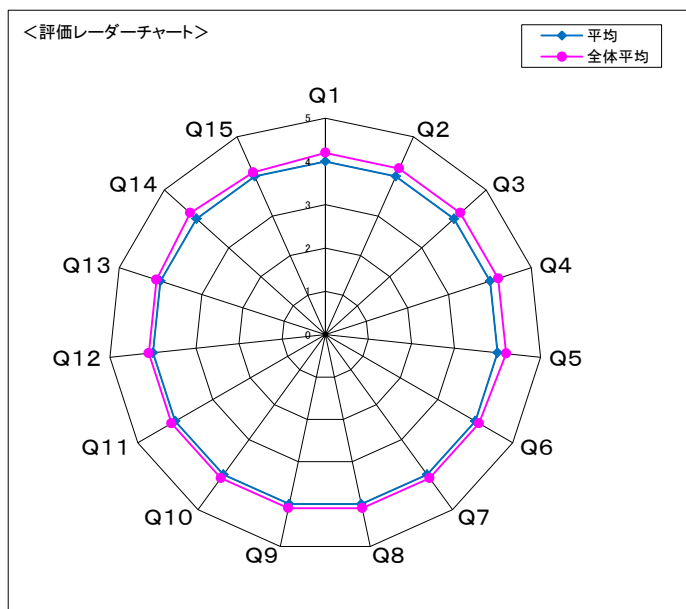
項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
2. 授業の構成は体系的に行われていた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
3. 授業の時間数は適当だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
4. 授業の進行は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1

<回答分布>



<評価レーダーチャート>



自由記載に関するコメント

自由記載なし

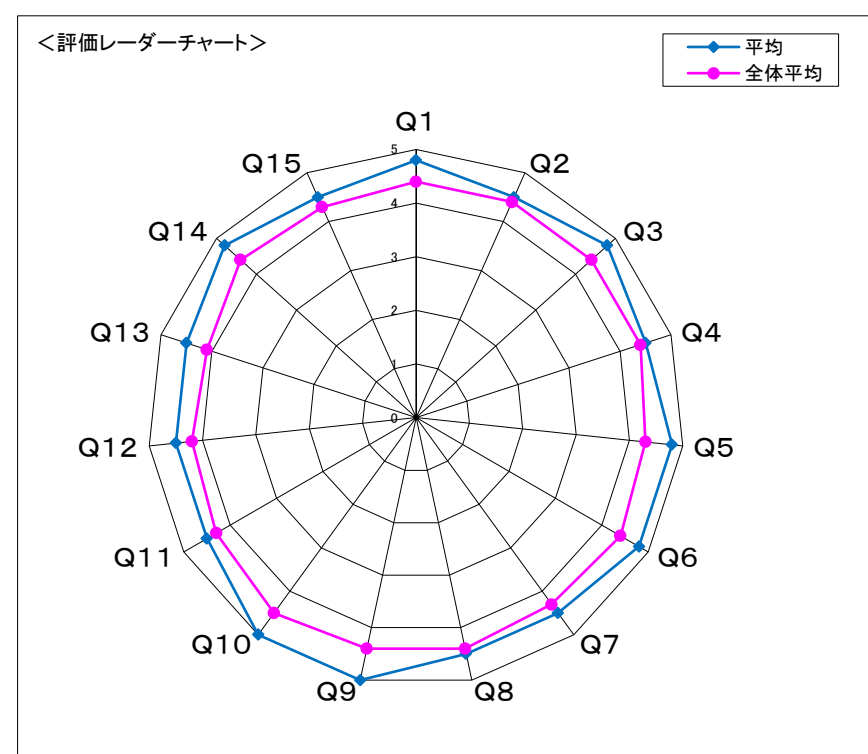
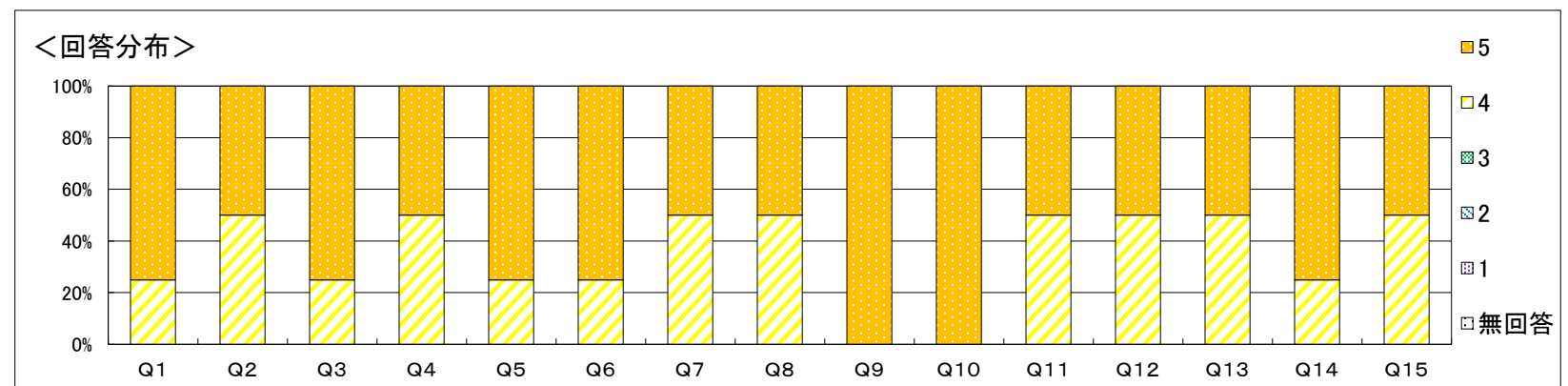
結果全体に対するコメント

16名中1名のみ解答であり、コメントできるものではない。
しかし、2・1との評価の提出がないことから、現状で大きな問題はなかったと捉え、さらに良いものとなるように努める。特に、助産哲学の構築ができるように、またカトリックにおける倫理が理解できるように構成する。

科目名	(500002) 4000022F11100400 出産の文化		
学科	助産研究科	履修者数	16人
学年	基礎1年	回収数	4人
必修・選択の別	必修	回収率	25.0%

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	3	1	0	0	-	0	4.8	4.4
2. 授業の構成は体系的に行われていた	2	2	0	0	-	0	4.5	4.4
3. 授業の時間数は適切だった	3	1	0	0	-	0	4.8	4.4
4. 授業の進行は適切だった	2	2	0	0	-	0	4.5	4.4
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	3	1	0	0	-	0	4.8	4.3
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	3	1	0	0	-	0	4.8	4.4
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	2	2	0	0	-	0	4.5	4.3
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	2	2	0	0	-	0	4.5	4.4
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	4	0	0	0	-	0	5.0	4.4
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	4	0	0	0	-	0	5.0	4.5
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	2	2	0	0	-	0	4.5	4.3
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	2	2	0	0	-	0	4.5	4.2
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	2	2	0	0	-	0	4.5	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	3	1	0	0	-	0	4.8	4.4
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	2	2	0	0	-	0	4.5	4.3



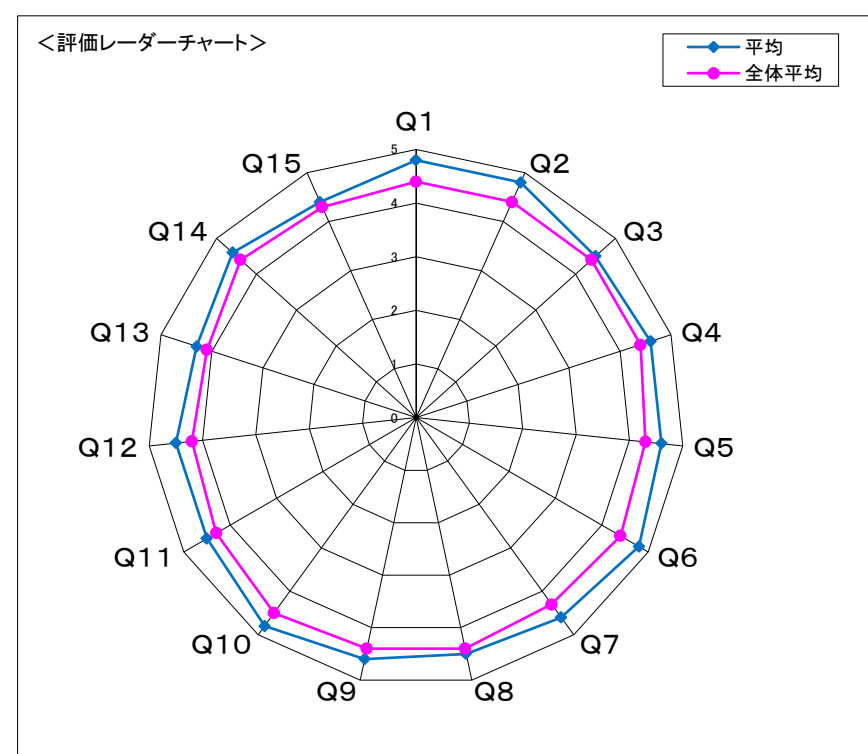
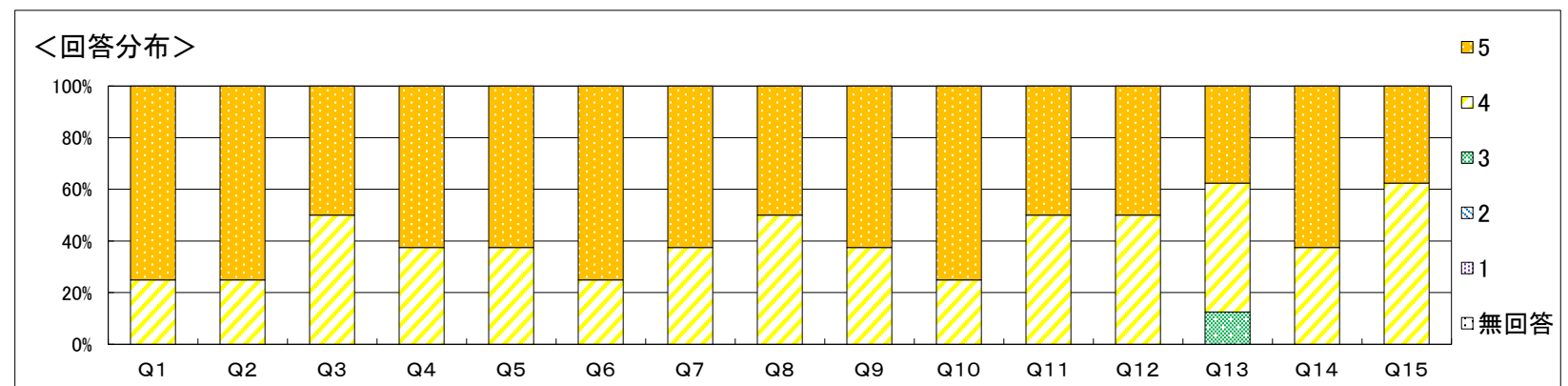
自由記載に関するコメント

結果全体に対するコメント
 回収率が低いものの、回答した院生による授業評価は高評価であった。
 出産を国内外の国や地域の歴史や文化といった面から学修する授業は、新鮮で興味関心が高かったようで、積極的な学修姿勢がみられた。

科目名	(500003) 4000032F11200100 女性のフィジカルイグザミネーション		
学科	助産研究科	履修者数	16人
学年	基礎1年	回収数	8人
必修・選択の別	必修	回収率	50.0%

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	6	2	0	0	-	0	4.8	4.4
2. 授業の構成は体系的に行われていた	6	2	0	0	-	0	4.8	4.4
3. 授業の時間数は適切だった	4	4	0	0	-	0	4.5	4.4
4. 授業の進行は適切だった	5	3	0	0	-	0	4.6	4.4
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	5	3	0	0	-	0	4.6	4.3
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	6	2	0	0	-	0	4.8	4.4
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	5	3	0	0	-	0	4.6	4.3
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	4	4	0	0	-	0	4.5	4.4
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	5	3	0	0	-	0	4.6	4.4
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	6	2	0	0	-	0	4.8	4.5
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	4	4	0	0	-	0	4.5	4.3
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	4	4	0	0	-	0	4.5	4.2
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	3	4	1	0	-	0	4.3	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	5	3	0	0	-	0	4.6	4.4
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	3	5	0	0	-	0	4.4	4.3



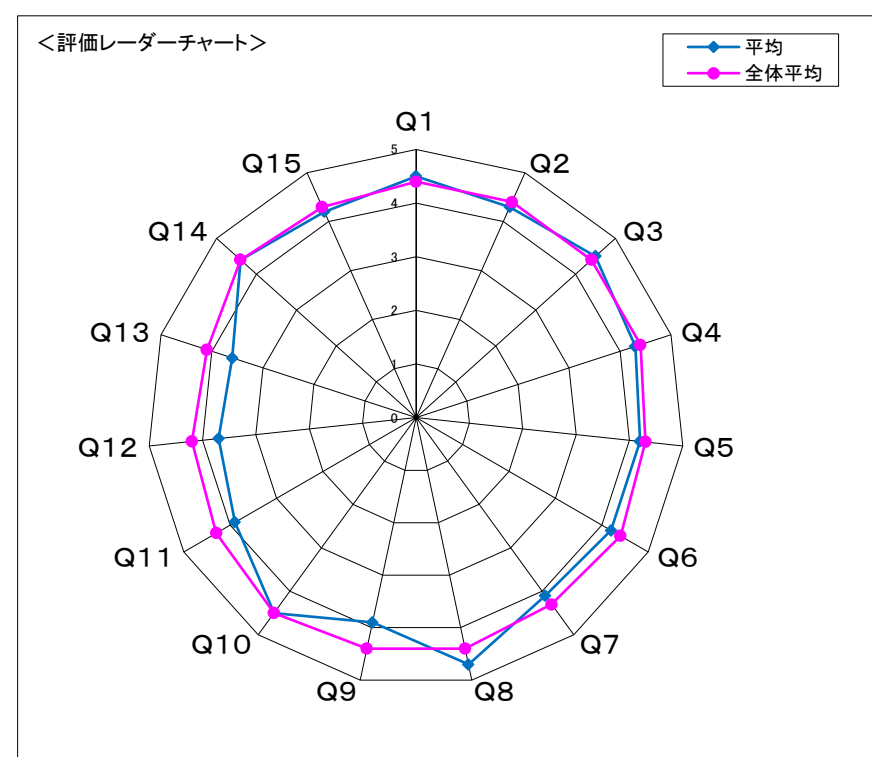
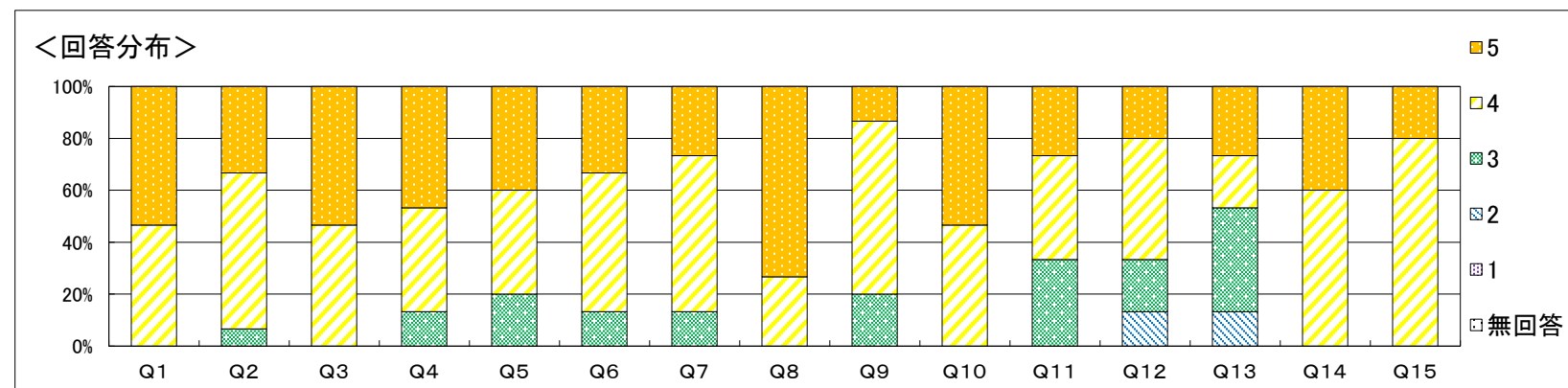
自由記載に関するコメント
 演習時の時間配分については、各コマごとに講義と演習の時間配分を再検討します。

結果全体に対するコメント
 回答率50%と半数であるが、どの項目も全体平均を上回っている。今後もさらに効果的講義・演習となるよう検討を重ねていく。

科目名	(500004) 4000042F11200200 助産薬理学 I		
学科	助産研究科	履修者数	16人
学年	基礎1年	回収数	15人
必修・選択の別	必修	回収率	93.8%

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	8	7	0	0	-	0	4.5	4.4
2. 授業の構成は体系的に行われていた	5	9	1	0	-	0	4.3	4.4
3. 授業の時間数は適切だった	8	7	0	0	-	0	4.5	4.4
4. 授業の進行は適切だった	7	6	2	0	-	0	4.3	4.4
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	6	6	3	0	-	0	4.2	4.3
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	5	8	2	0	-	0	4.2	4.4
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	4	9	2	0	-	0	4.1	4.3
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	11	4	0	0	-	0	4.7	4.4
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	2	10	3	0	-	0	3.9	4.4
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	8	7	0	0	-	0	4.5	4.5
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	4	6	5	0	-	0	3.9	4.3
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	3	7	3	2	-	0	3.7	4.2
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	4	3	6	2	-	0	3.6	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	6	9	0	0	-	0	4.4	4.4
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	3	12	0	0	-	0	4.2	4.3



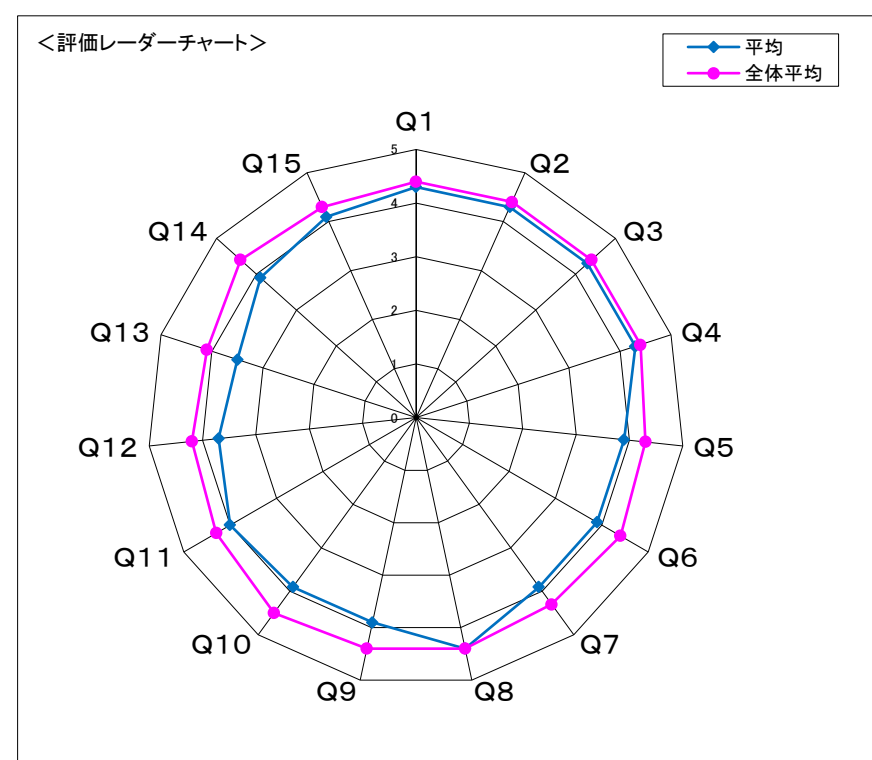
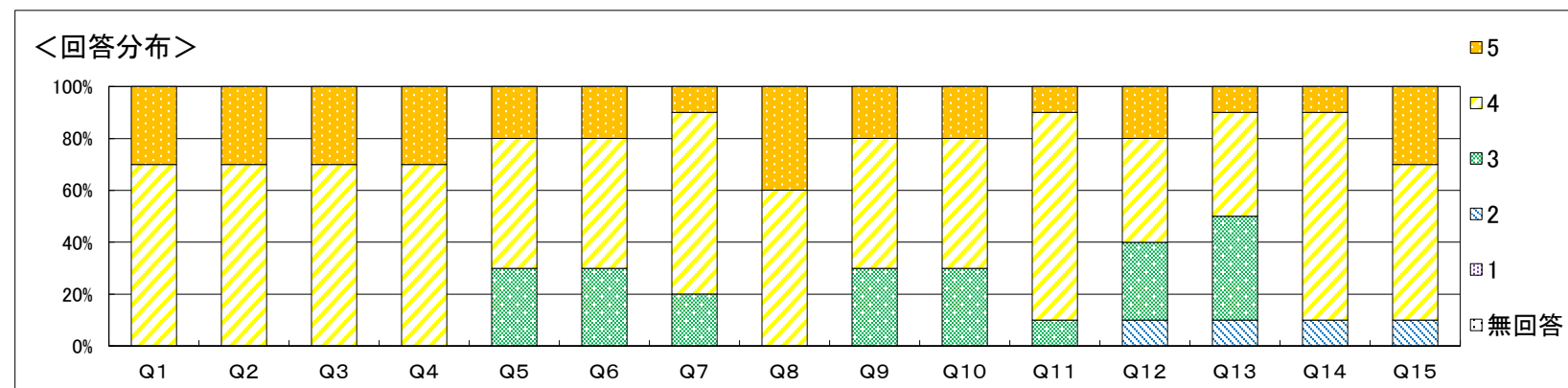
自由記載に関するコメント
 非常勤の先生と連携を取り、社会状況と講義内容に合わせて授業形態を考えます。

結果全体に対するコメント
 一方向からの講義になっていることが伺える。非常勤の先生と相談し、双方向での講義となるように工夫する。

科目名	(500005) 4000052F11200300 助産薬理学Ⅱ		
学科	助産研究科	履修者数	19人
学年	基礎2年	回収数	10人
必修・選択の別	必修	回収率	52.6%

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	3	7	0	0	-	0	4.3	4.4
2. 授業の構成は体系的に行われていた	3	7	0	0	-	0	4.3	4.4
3. 授業の時間数は適切だった	3	7	0	0	-	0	4.3	4.4
4. 授業の進行は適切だった	3	7	0	0	-	0	4.3	4.4
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	2	5	3	0	-	0	3.9	4.3
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	2	5	3	0	-	0	3.9	4.4
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	1	7	2	0	-	0	3.9	4.3
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	4	6	0	0	-	0	4.4	4.4
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	2	5	3	0	-	0	3.9	4.4
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	2	5	3	0	-	0	3.9	4.5
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	1	8	1	0	-	0	4.0	4.3
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	2	4	3	1	-	0	3.7	4.2
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	1	4	4	1	-	0	3.5	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	1	8	0	1	-	0	3.9	4.4
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	3	6	0	1	-	0	4.1	4.3



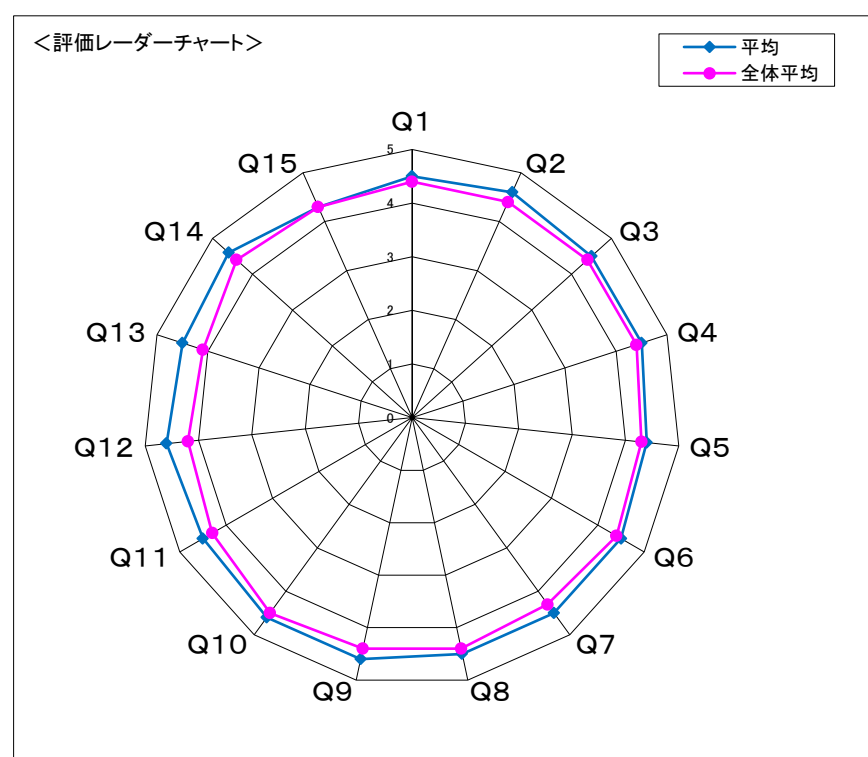
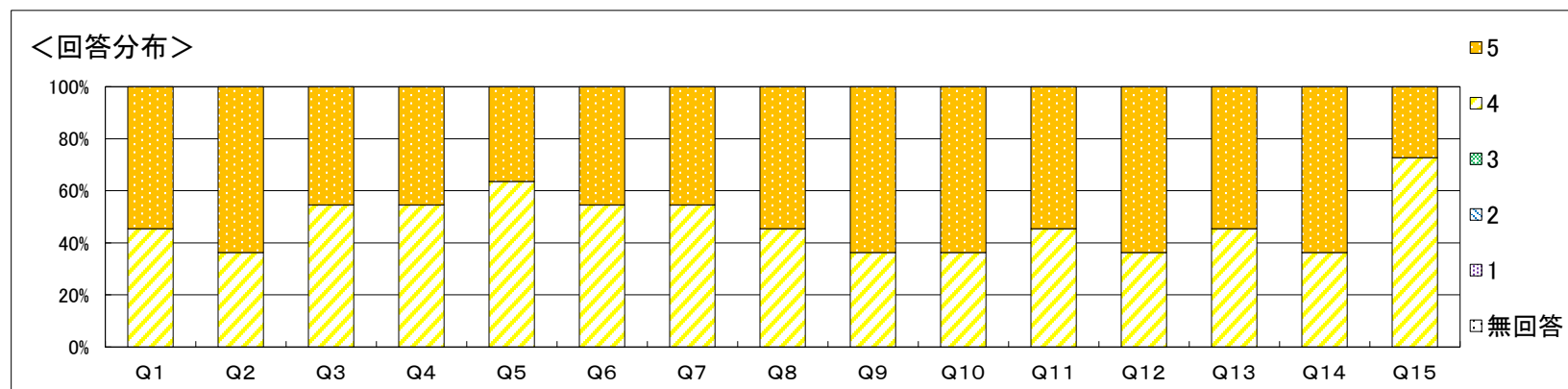
自由記載に関するコメント

結果全体に対するコメント
 回答率52.6%と約半数ではあるが、大半の項目が全体平均を下回っている。今後、特に指定・参考図書の活用法と事前・事後学習方法について、2人の非常勤講師の先生に相談し、検討する。

科目名	(500006) 4000062F11200400 妊産褥婦乳幼児の栄養		
学科	助産研究科	履修者数	16人
学年	基礎1年	回収数	11人
必修・選択の別	必修	回収率	68.8%

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	6	5	0	0	-	0	4.5	4.4
2. 授業の構成は体系的に行われていた	7	4	0	0	-	0	4.6	4.4
3. 授業の時間数は適切だった	5	6	0	0	-	0	4.5	4.4
4. 授業の進行は適切だった	5	6	0	0	-	0	4.5	4.4
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	4	7	0	0	-	0	4.4	4.3
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	5	6	0	0	-	0	4.5	4.4
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	5	6	0	0	-	0	4.5	4.3
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	6	5	0	0	-	0	4.5	4.4
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	7	4	0	0	-	0	4.6	4.4
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	7	4	0	0	-	0	4.6	4.5
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	6	5	0	0	-	0	4.5	4.3
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	7	4	0	0	-	0	4.6	4.2
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	6	5	0	0	-	0	4.5	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	7	4	0	0	-	0	4.6	4.4
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	3	8	0	0	-	0	4.3	4.3



自由記載に関するコメント

自分自身の食事の嗜好やとり方を振り返る機会になり、また妊娠期にある女性への食事相談に役立てらる、との感想から、バランスの良い食事のメニューを考え、栄養分析をし、さらに調理、試食し、これらをクラス全体で共有する授業方法が効果的であったと考える。

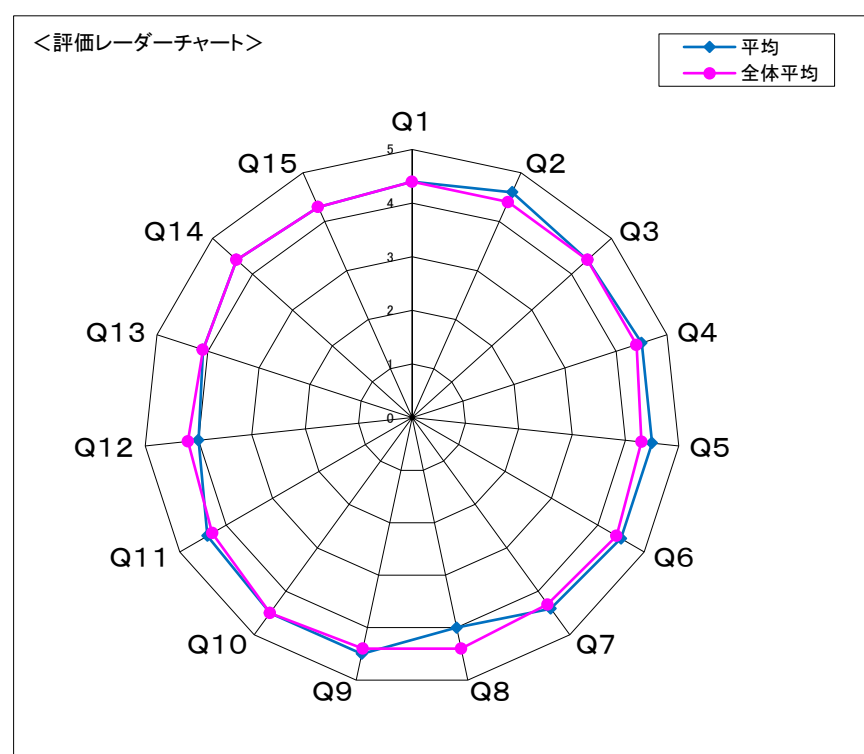
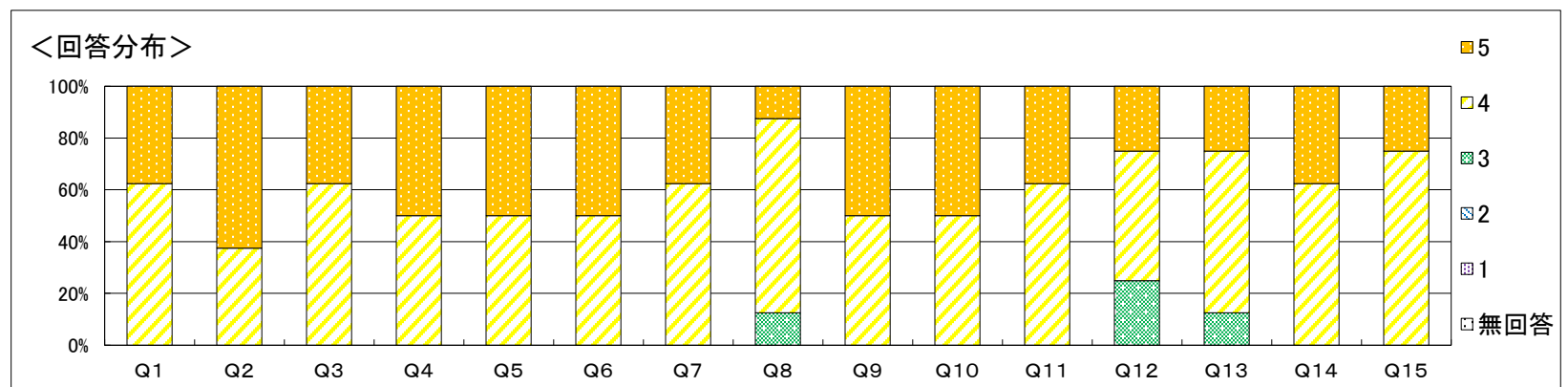
結果全体に対するコメント

全質問項目が、全体平均を上回っており、女性や妊産褥婦の健康にとって食習慣の与える影響を理解し、積極的な関心をもって学修したことがうかがえた。

科目名	(500007) 4000072F11200500 助産女性学		
学科	助産研究科	履修者数	16人
学年	基礎1年	回収数	8人
必修・選択の別	必修	回収率	50.0%

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	3	5	0	0	-	0	4.4	4.4
2. 授業の構成は体系的に行われていた	5	3	0	0	-	0	4.6	4.4
3. 授業の時間数は適切だった	3	5	0	0	-	0	4.4	4.4
4. 授業の進行は適切だった	4	4	0	0	-	0	4.5	4.4
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	4	4	0	0	-	0	4.5	4.3
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	4	4	0	0	-	0	4.5	4.4
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	3	5	0	0	-	0	4.4	4.3
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	1	6	1	0	-	0	4.0	4.4
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	4	4	0	0	-	0	4.5	4.4
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	4	4	0	0	-	0	4.5	4.5
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	3	5	0	0	-	0	4.4	4.3
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	2	4	2	0	-	0	4.0	4.2
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	2	5	1	0	-	0	4.1	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	3	5	0	0	-	0	4.4	4.4
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	2	6	0	0	-	0	4.3	4.3



自由記載に関するコメント

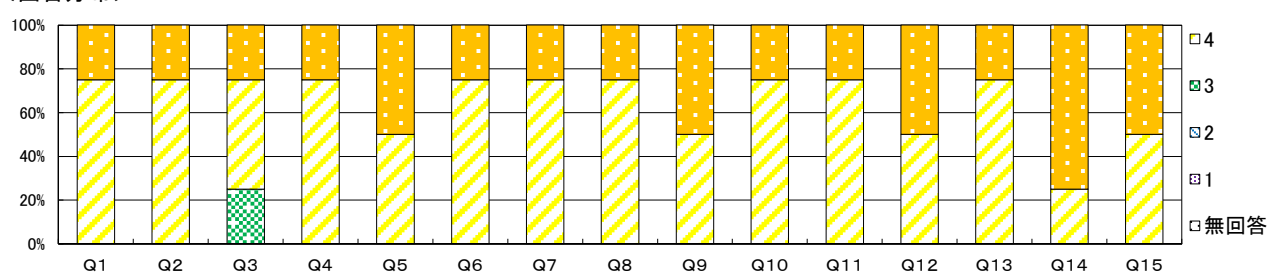
結果全体に対するコメント
 回答率50%と半数ではあるが、大体の項目において全体平均を上回っている。今後は、参考図書の活用方法と合わせて、レポートや課題の内容について検討する。

科目名	(500019) 40000182F11200600 助産カウンセリング		
学科	助産研究科	履修者数	16人
学年	1	回収数	4人
必修・選択の別	必修	回収率	25.0%

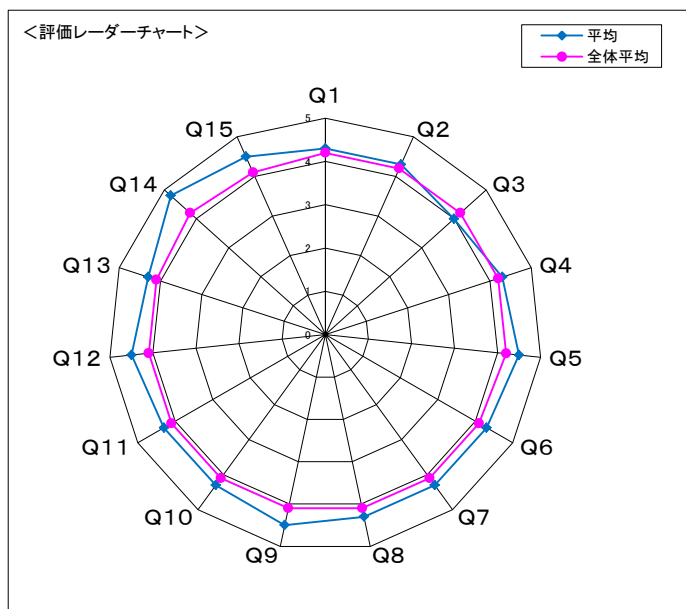
項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	1	3	0	0	-	0	4.3	4.2
2. 授業の構成は体系的に行われていた	1	3	0	0	-	0	4.3	4.2
3. 授業の時間数は適切だった	1	2	1	0	-	0	4.0	4.2
4. 授業の進行は適切だった	1	3	0	0	-	0	4.3	4.2
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	2	2	0	0	-	0	4.5	4.2
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	1	3	0	0	-	0	4.3	4.1
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	1	3	0	0	-	0	4.3	4.1
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	1	3	0	0	-	0	4.3	4.1
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	2	2	0	0	-	0	4.5	4.1
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	1	3	0	0	-	0	4.3	4.1
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	1	3	0	0	-	0	4.3	4.1
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	2	2	0	0	-	0	4.5	4.1
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	1	3	0	0	-	0	4.3	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	3	1	0	0	-	0	4.8	4.2
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	2	2	0	0	-	0	4.5	4.1

<回答分布>



<評価レーダーチャート>



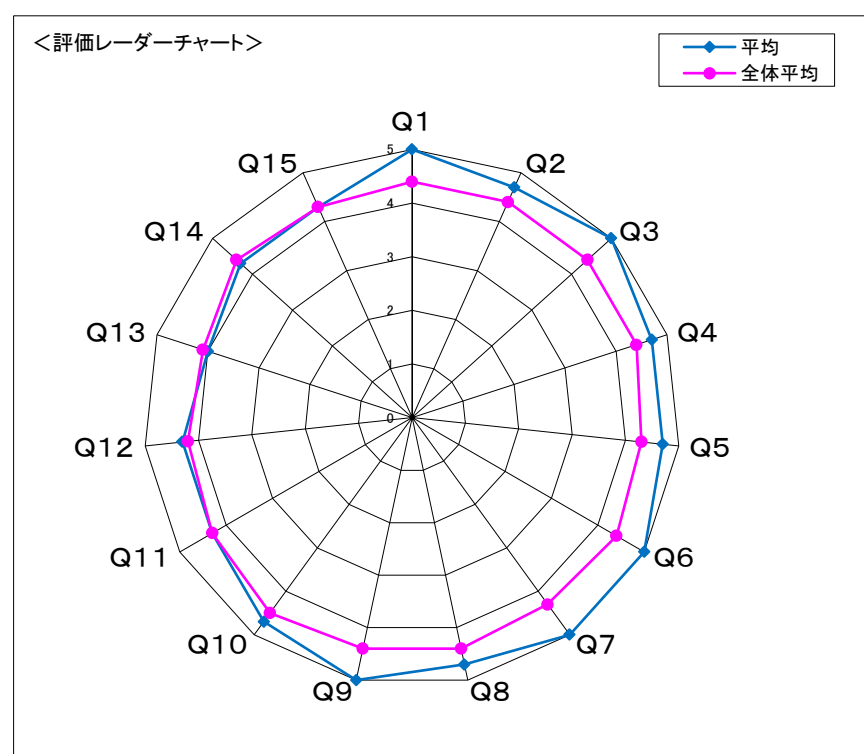
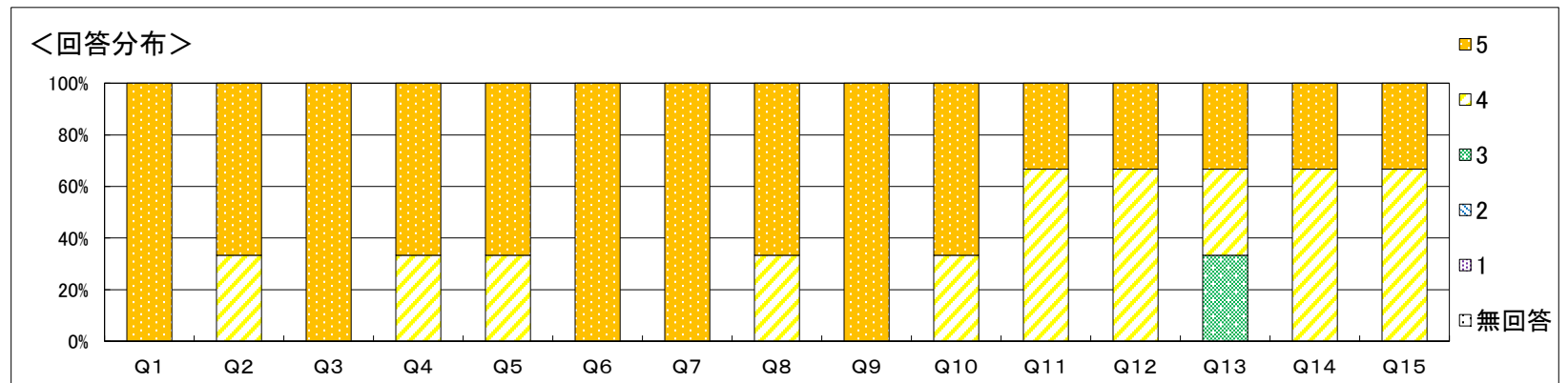
自由記載に関するコメント

結果全体に対するコメント
 アンケートの回収数が少なかったことは残念であった。回答をよせた4人の院生は、この科目の学修に積極的に取り組み、新たな知識、考えかた、スキルを得ることができ、学習目標を達成できたとの高評価であった。助産師として妊産褥婦や家族、またケアチームの一人として、良好な人間関係を構築するための基礎として、さらに授業の充実を図っていきたい。

科目名	(500008) 4000082F11200700 健康教育論 I		
学科	助産研究科	履修者数	16人
学年	基礎1年	回収数	3人
必修・選択の別	必修	回収率	18.8%

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	3	0	0	0	-	0	5.0	4.4
2. 授業の構成は体系的に行われていた	2	1	0	0	-	0	4.7	4.4
3. 授業の時間数は適当だった	3	0	0	0	-	0	5.0	4.4
4. 授業の進行は適切だった	2	1	0	0	-	0	4.7	4.4
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	2	1	0	0	-	0	4.7	4.3
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	3	0	0	0	-	0	5.0	4.4
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	3	0	0	0	-	0	5.0	4.3
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	2	1	0	0	-	0	4.7	4.4
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	3	0	0	0	-	0	5.0	4.4
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	2	1	0	0	-	0	4.7	4.5
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	1	2	0	0	-	0	4.3	4.3
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	1	2	0	0	-	0	4.3	4.2
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	1	1	1	0	-	0	4.0	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	1	2	0	0	-	0	4.3	4.4
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	1	2	0	0	-	0	4.3	4.3



自由記載に関するコメント

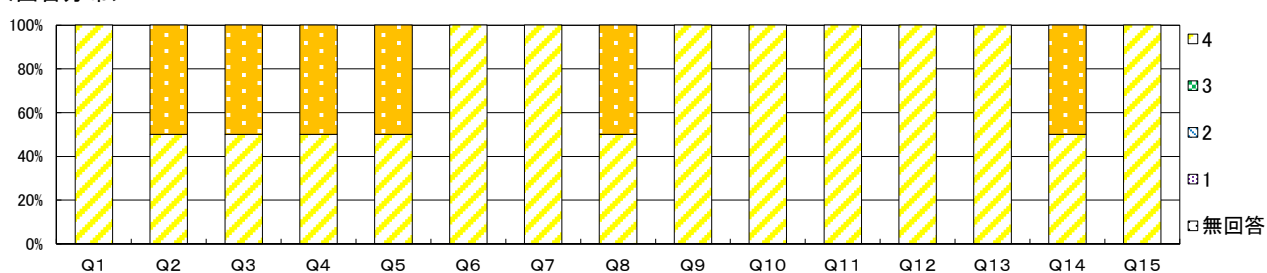
結果全体に対するコメント
 ・これまでは妊婦に対する対面式両親学級の見学を実習時行うことができていたが、新型コロナウイルスの影響で、実習施設が対面式の両親学級を行っていない状況であった。従って、授業では、対面で行う参加型のクラスがイメージできるような授業内容であったことが、学生の興味を引いたのではないかと考える。

科目名	(500021) 40000202F11300100 助産管理論 I		
学科	助産研究科	履修者数	16人
学年	1	回収数	2人
必修・選択の別	必修	回収率	12.5%

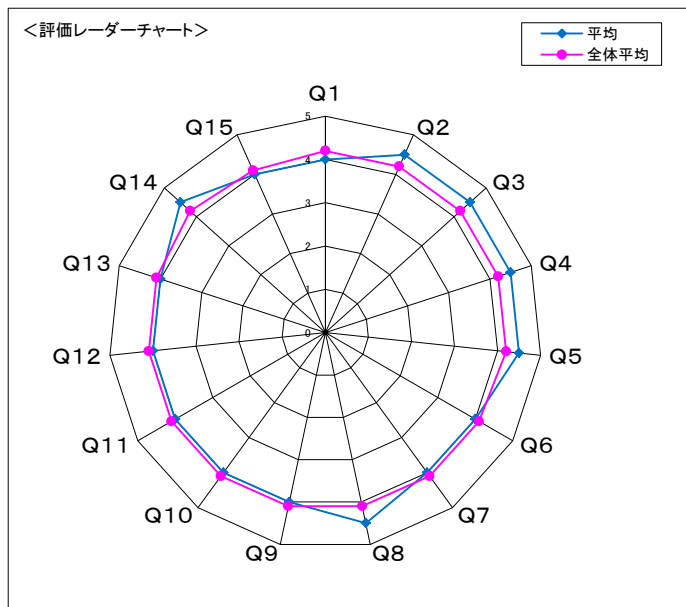
項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	0	2	0	0	-	0	4.0	4.2
2. 授業の構成は体系的に行われていた	1	1	0	0	-	0	4.5	4.2
3. 授業の時間数は適切だった	1	1	0	0	-	0	4.5	4.2
4. 授業の進行は適切だった	1	1	0	0	-	0	4.5	4.2
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	1	1	0	0	-	0	4.5	4.2
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	0	2	0	0	-	0	4.0	4.1
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	0	2	0	0	-	0	4.0	4.1
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	1	1	0	0	-	0	4.5	4.1
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	0	2	0	0	-	0	4.0	4.1
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	0	2	0	0	-	0	4.0	4.1
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	0	2	0	0	-	0	4.0	4.1
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	0	2	0	0	-	0	4.0	4.1
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	0	2	0	0	-	0	4.0	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	1	1	0	0	-	0	4.5	4.2
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	0	2	0	0	-	0	4.0	4.1

<回答分布>



<評価レーダーチャート>



自由記載に関するコメント

・災害看護について、理解しやすい資料を配布した。災害が増えている現在であるため、助産師として災害時どうあるべきか、自覚が芽生えた授業になったと考える。

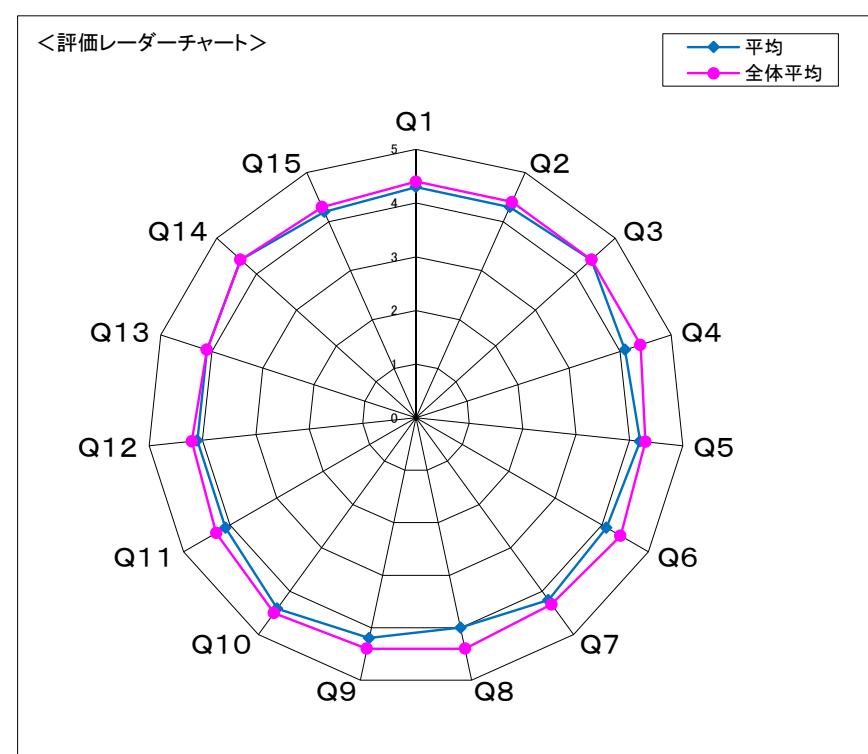
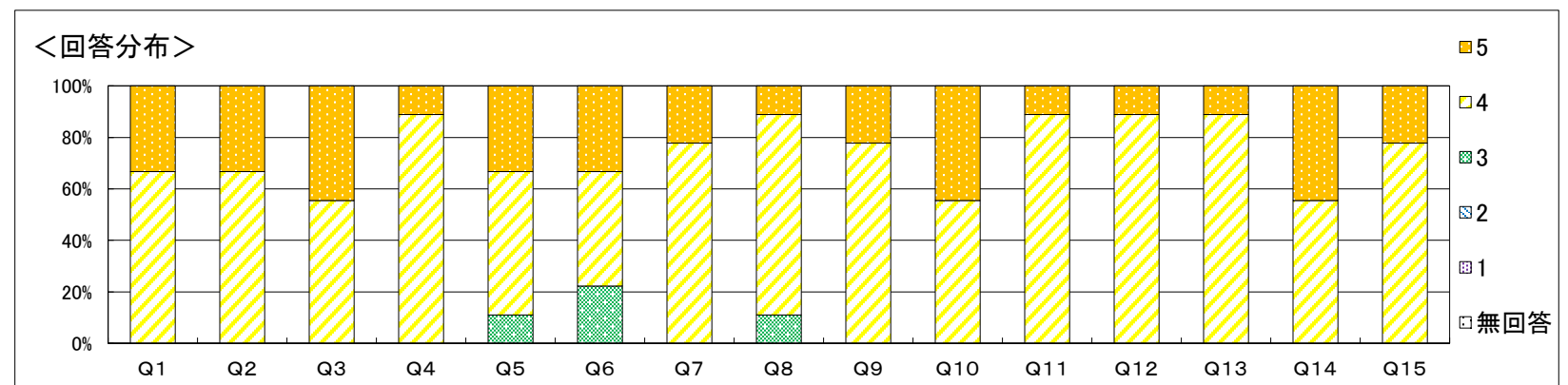
結果全体に対するコメント

・助産学生として必要な助産管理についての授業の組み立てを行った。各学生が実習期間中感染に対しての自己管理ができたことが、実習を続けられたことに結び付いたと考える。

科目名	(500010) 4000102F11300200 助産管理論Ⅱ		
学科	助産研究科	履修者数	19人
学年	基礎2年	回収数	9人
必修・選択の別	必修	回収率	47.4%

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	3	6	0	0	-	0	4.3	4.4
2. 授業の構成は体系的に行われていた	3	6	0	0	-	0	4.3	4.4
3. 授業の時間数は適切だった	4	5	0	0	-	0	4.4	4.4
4. 授業の進行は適切だった	1	8	0	0	-	0	4.1	4.4
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	3	5	1	0	-	0	4.2	4.3
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	3	4	2	0	-	0	4.1	4.4
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	2	7	0	0	-	0	4.2	4.3
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	1	7	1	0	-	0	4.0	4.4
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	2	7	0	0	-	0	4.2	4.4
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	4	5	0	0	-	0	4.4	4.5
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	1	8	0	0	-	0	4.1	4.3
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	1	8	0	0	-	0	4.1	4.2
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	1	8	0	0	-	0	4.1	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	4	5	0	0	-	0	4.4	4.4
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	2	7	0	0	-	0	4.2	4.3



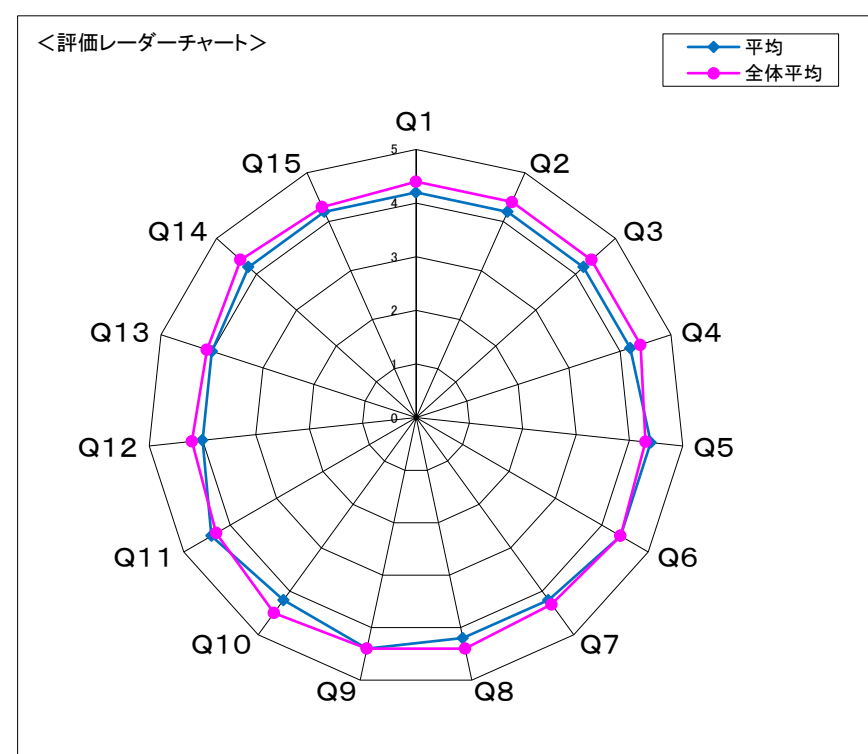
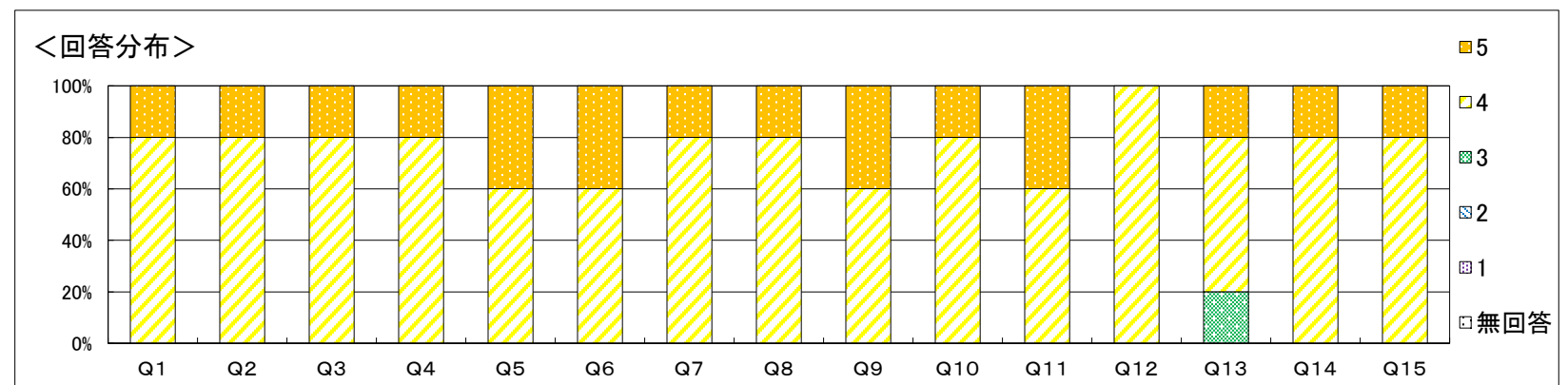
自由記載に関するコメント

結果全体に対するコメント

科目名	(500011) 4000112F11300300 助産師教育論		
学科	助産研究科	履修者数	19人
学年	基礎2年	回収数	5人
必修・選択の別	必修	回収率	26.3%

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	1	4	0	0	-	0	4.2	4.4
2. 授業の構成は体系的に行われていた	1	4	0	0	-	0	4.2	4.4
3. 授業の時間数は適切だった	1	4	0	0	-	0	4.2	4.4
4. 授業の進行は適切だった	1	4	0	0	-	0	4.2	4.4
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	2	3	0	0	-	0	4.4	4.3
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	2	3	0	0	-	0	4.4	4.4
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	1	4	0	0	-	0	4.2	4.3
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	1	4	0	0	-	0	4.2	4.4
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	2	3	0	0	-	0	4.4	4.4
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	1	4	0	0	-	0	4.2	4.5
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	2	3	0	0	-	0	4.4	4.3
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	0	5	0	0	-	0	4.0	4.2
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	1	3	1	0	-	0	4.0	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	1	4	0	0	-	0	4.2	4.4
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	1	4	0	0	-	0	4.2	4.3



自由記載に関するコメント

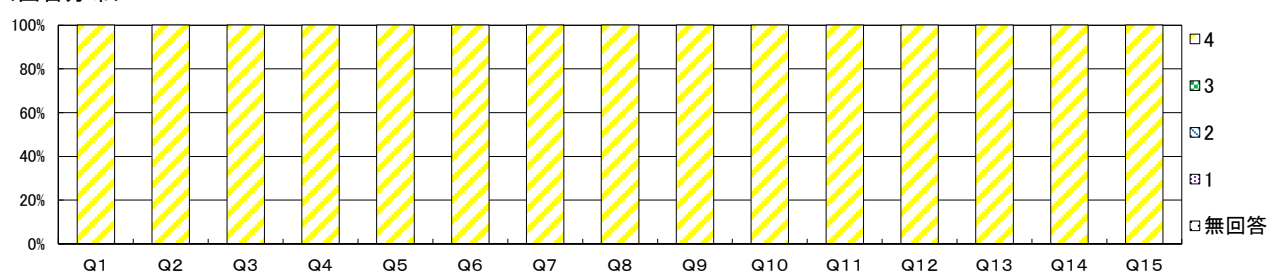
結果全体に対するコメント
 ・授業がZoomであったことで、グループワークもブレイクアウトルームを活用したが、限界があり十分な討議ができなかったのではないかと考える。

科目名	(500022) 40000212F11300500 母子保健行政・財政論		
学科	助産研究科	履修者数	16人
学年	1	回収数	1人
必修・選択の別	必修	回収率	6.3%

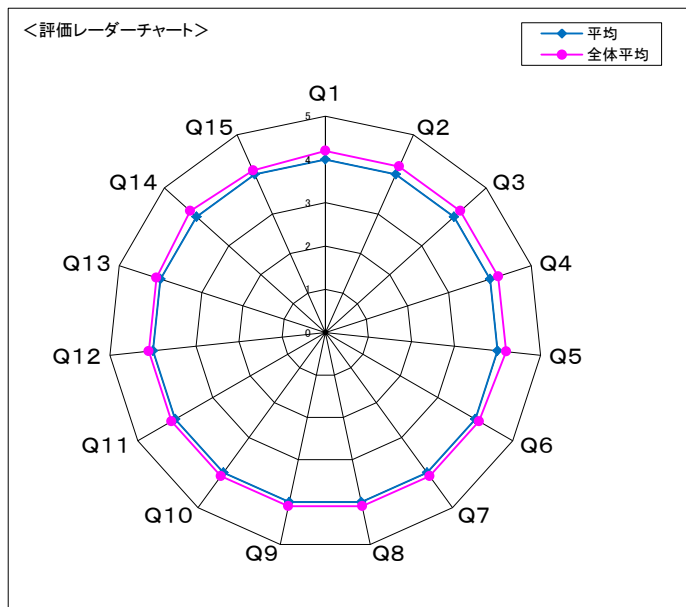
項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
2. 授業の構成は体系的に行われていた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
3. 授業の時間数は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
4. 授業の進行は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1

<回答分布>



<評価レーダーチャート>



自由記載に関するコメント

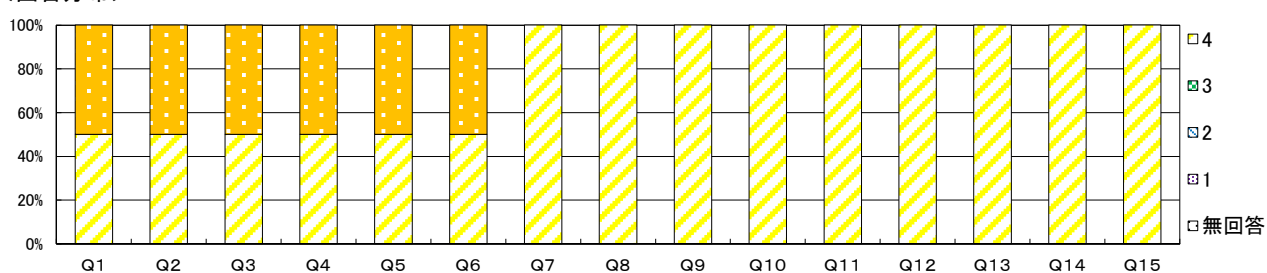
結果全体に対するコメント
 回答数が1名であり、全体の結果を反映しているとは言いがため、「結果全体に対するコメント」はできない。

科目名	(500023) 40000222F12100100 マタニティサイクル助産ケア I		
学科	助産研究科	履修者数	16人
学年	1	回収数	2人
必修・選択の別	必修	回収率	12.5%

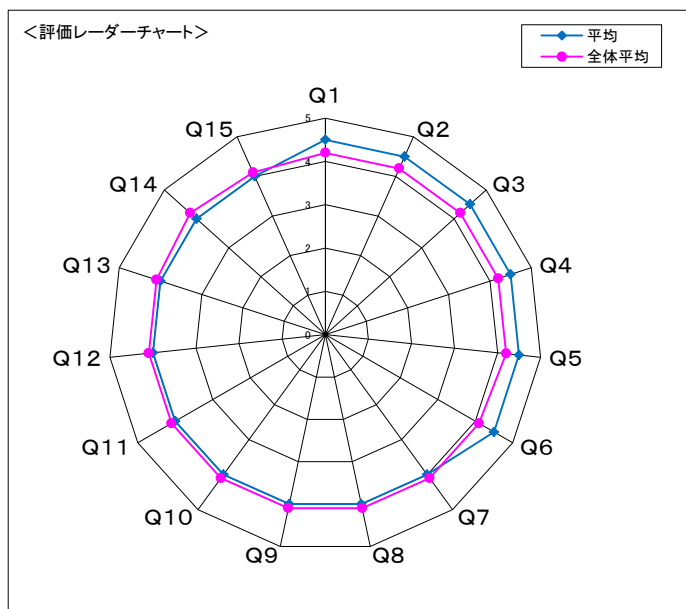
項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	1	1	0	0	-	0	4.5	4.2
2. 授業の構成は体系的に行われていた	1	1	0	0	-	0	4.5	4.2
3. 授業の時間数は適当だった	1	1	0	0	-	0	4.5	4.2
4. 授業の進行は適切だった	1	1	0	0	-	0	4.5	4.2
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	1	1	0	0	-	0	4.5	4.2
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	1	1	0	0	-	0	4.5	4.1
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	0	2	0	0	-	0	4.0	4.1
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	0	2	0	0	-	0	4.0	4.1
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	0	2	0	0	-	0	4.0	4.1
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	0	2	0	0	-	0	4.0	4.1
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	0	2	0	0	-	0	4.0	4.1
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	0	2	0	0	-	0	4.0	4.1
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	0	2	0	0	-	0	4.0	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	0	2	0	0	-	0	4.0	4.2
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	0	2	0	0	-	0	4.0	4.1

<回答分布>



<評価レーダーチャート>



自由記載に関するコメント

自由記載なし

結果全体に対するコメント

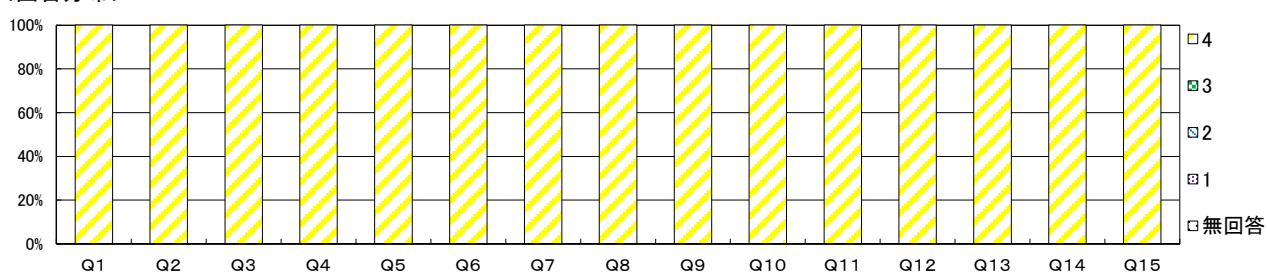
16名中2名の解答であり、コメントできるものではない。
しかし、2名は全て4以上であり、2・1の不満の評価はなく満足してもらえたと捉え、今年度以上に良い授業ができるように努める。スムーズな実践に繋がる知識・技術・態度が身につくように構成する。

科目名	(500025) 40000242F12100300 マタニティサイクル助産ケアⅢ		
学科	助産研究科	履修者数	16人
学年	1	回収数	2人
必修・選択の別	必修	回収率	12.5%

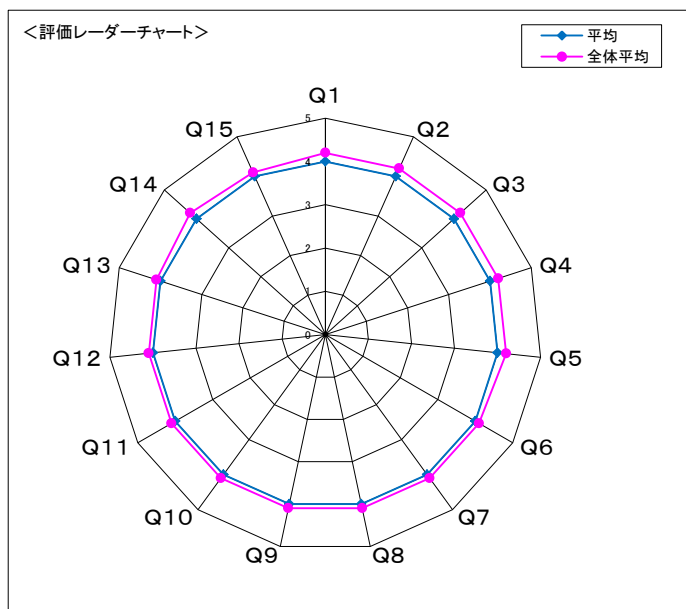
項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	0	2	0	0	-	0	4.0	4.2
2. 授業の構成は体系的に行われていた	0	2	0	0	-	0	4.0	4.2
3. 授業の時間数は適切だった	0	2	0	0	-	0	4.0	4.2
4. 授業の進行は適切だった	0	2	0	0	-	0	4.0	4.2
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	0	2	0	0	-	0	4.0	4.2
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	0	2	0	0	-	0	4.0	4.1
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	0	2	0	0	-	0	4.0	4.1
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	0	2	0	0	-	0	4.0	4.1
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	0	2	0	0	-	0	4.0	4.1
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	0	2	0	0	-	0	4.0	4.1
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	0	2	0	0	-	0	4.0	4.1
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	0	2	0	0	-	0	4.0	4.1
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	0	2	0	0	-	0	4.0	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	0	2	0	0	-	0	4.0	4.2
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	0	2	0	0	-	0	4.0	4.1

<回答分布>



<評価レーダーチャート>



自由記載に関するコメント

結果全体に対するコメント

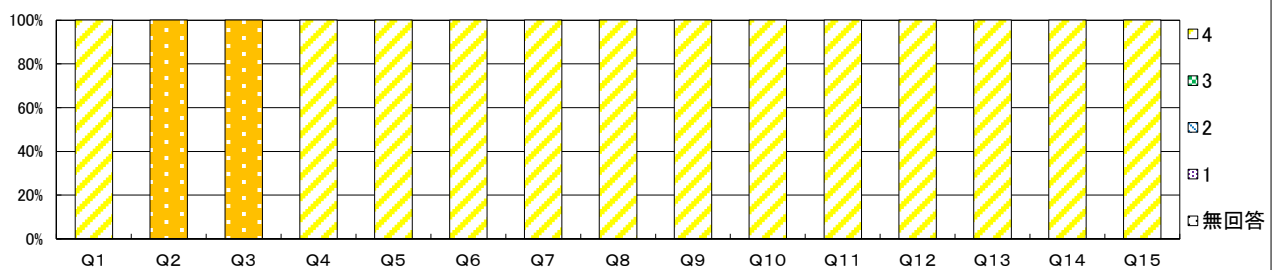
・実習に即使える資料を意識して配布した。今後も、同様に努力したいと思う。

科目名	(500026) 40000252F12100400 ハイリスク助産学 I		
学科	助産研究科	履修者数	16人
学年	1	回収数	1人
必修・選択の別	必修	回収率	6.3%

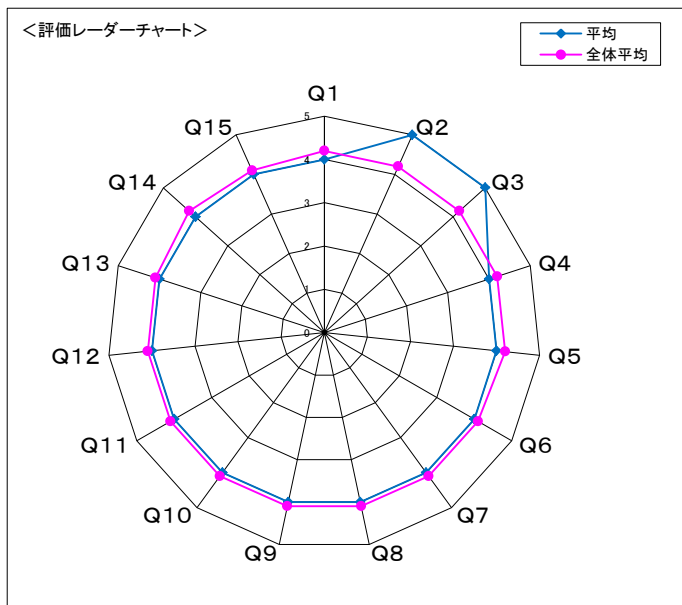
項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
2. 授業の構成は体系的に行われていた	1	0	0	0	-	0	5.0	4.2
3. 授業の時間数は適切だった	1	0	0	0	-	0	5.0	4.2
4. 授業の進行は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1

<回答分布>



<評価レーダーチャート>



自由記載に関するコメント

自由記載に関するコメント

結果全体に対するコメント

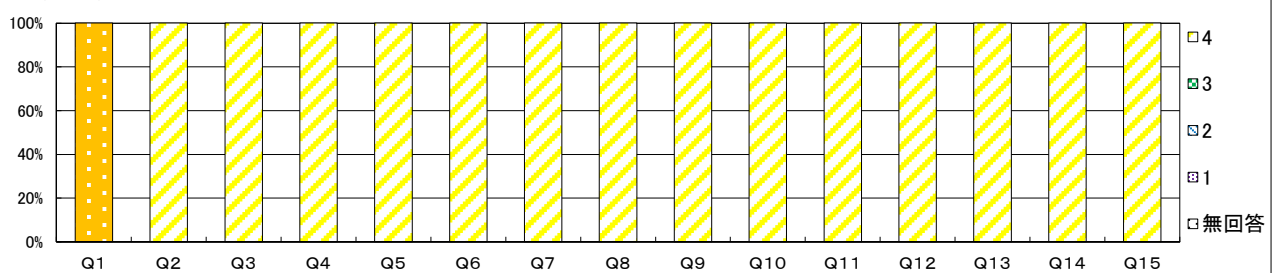
回答者が1名ということから、全体コメントはできない。

科目名	(500027) 40000262F12100500 ハイリスク助産学Ⅱ		
学科	助産研究科	履修者数	16人
学年	1	回収数	1人
必修・選択の別	必修	回収率	6.3%

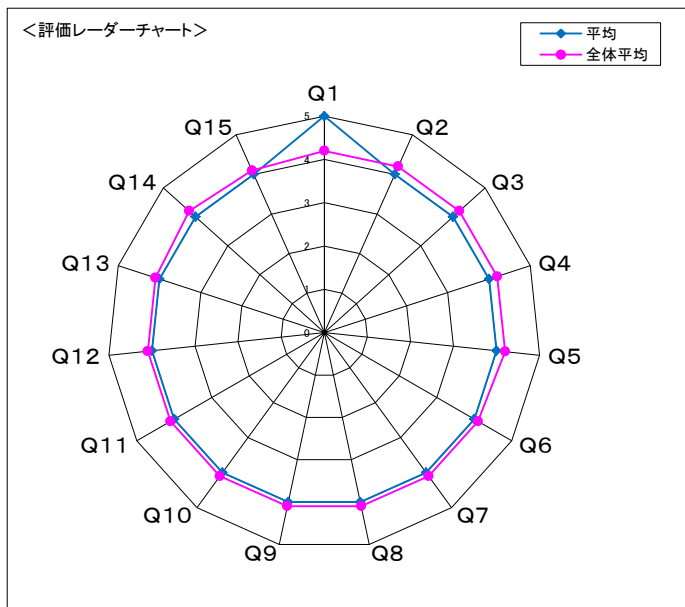
項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	1	0	0	0	-	0	5.0	4.2
2. 授業の構成は体系的に行われていた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
3. 授業の時間数は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
4. 授業の進行は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1

<回答分布>



<評価レーダーチャート>



自由記載に関するコメント

自由記載に関するコメント

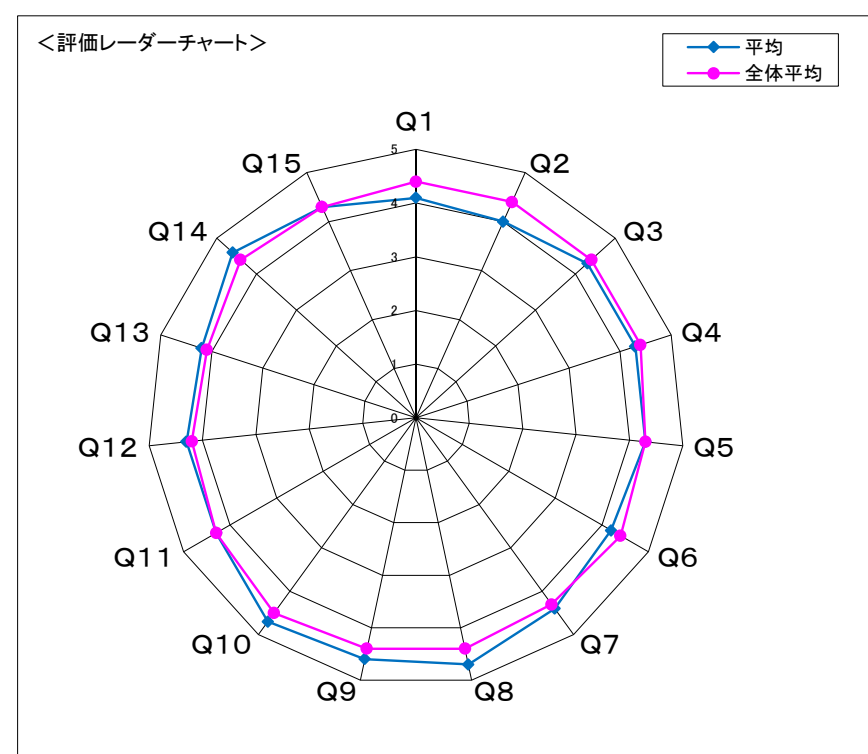
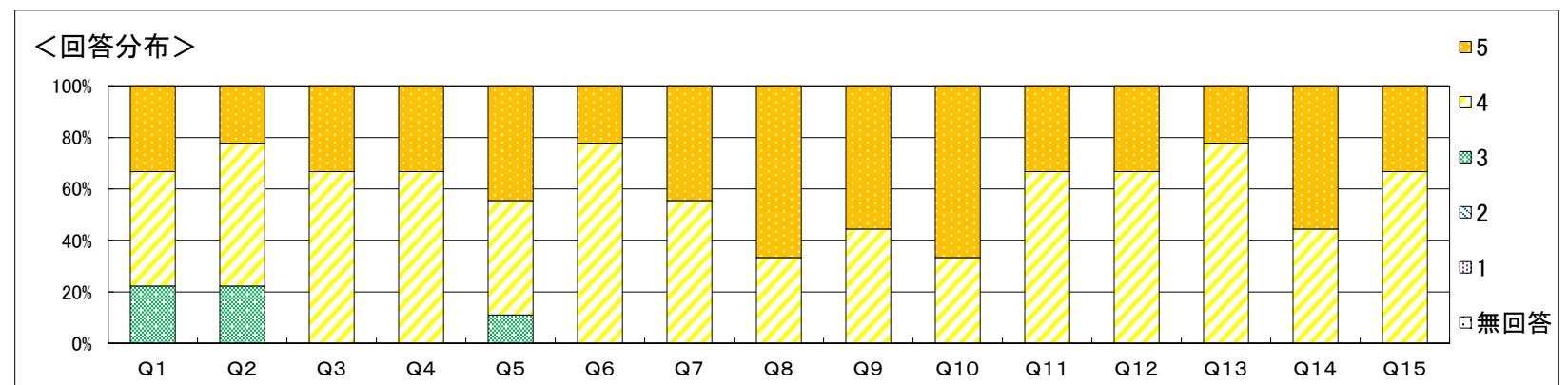
結果全体に対するコメント

・実際に病棟で活躍している医師や助産師の授業があり、具体的な事例の話もしていただけるため、興味を持って受けられる授業内容となっている。

科目名	(500014) 4000142F12100700 独立助産実践概論		
学科	助産研究科	履修者数	19人
学年	基礎2年	回収数	9人
必修・選択の別	必修	回収率	47.4%

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	3	4	2	0	-	0	4.1	4.4
2. 授業の構成は体系的に行われていた	2	5	2	0	-	0	4.0	4.4
3. 授業の時間数は適当だった	3	6	0	0	-	0	4.3	4.4
4. 授業の進行は適切だった	3	6	0	0	-	0	4.3	4.4
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	4	4	1	0	-	0	4.3	4.3
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	2	7	0	0	-	0	4.2	4.4
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	4	5	0	0	-	0	4.4	4.3
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	6	3	0	0	-	0	4.7	4.4
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	5	4	0	0	-	0	4.6	4.4
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	6	3	0	0	-	0	4.7	4.5
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	3	6	0	0	-	0	4.3	4.3
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	3	6	0	0	-	0	4.3	4.2
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	2	7	0	0	-	0	4.2	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	5	4	0	0	-	0	4.6	4.4
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	3	6	0	0	-	0	4.3	4.3



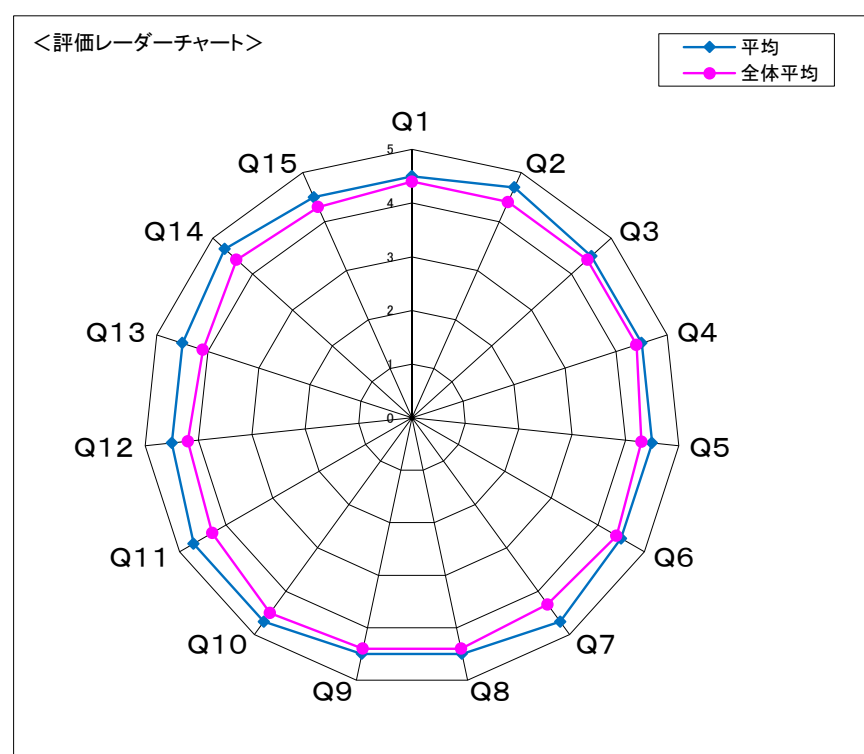
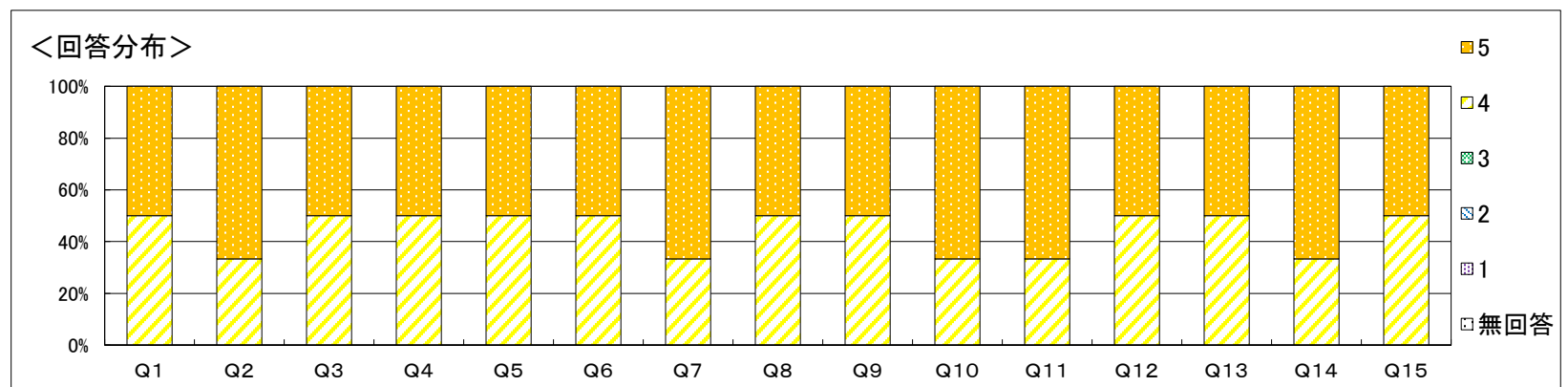
自由記載に関するコメント

結果全体に対するコメント

科目名	(500015) 4000152F12100800 独立助産演習		
学科	助産研究科	履修者数	19人
学年	基礎2年	回収数	6人
必修・選択の別	必修	回収率	31.6%

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	3	3	0	0	-	0	4.5	4.4
2. 授業の構成は体系的に行われていた	4	2	0	0	-	0	4.7	4.4
3. 授業の時間数は適切だった	3	3	0	0	-	0	4.5	4.4
4. 授業の進行は適切だった	3	3	0	0	-	0	4.5	4.4
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	3	3	0	0	-	0	4.5	4.3
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	3	3	0	0	-	0	4.5	4.4
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	4	2	0	0	-	0	4.7	4.3
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	3	3	0	0	-	0	4.5	4.4
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	3	3	0	0	-	0	4.5	4.4
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	4	2	0	0	-	0	4.7	4.5
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	4	2	0	0	-	0	4.7	4.3
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	3	3	0	0	-	0	4.5	4.2
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	3	3	0	0	-	0	4.5	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	4	2	0	0	-	0	4.7	4.4
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	3	3	0	0	-	0	4.5	4.3



自由記載に関するコメント

結果全体に対するコメント

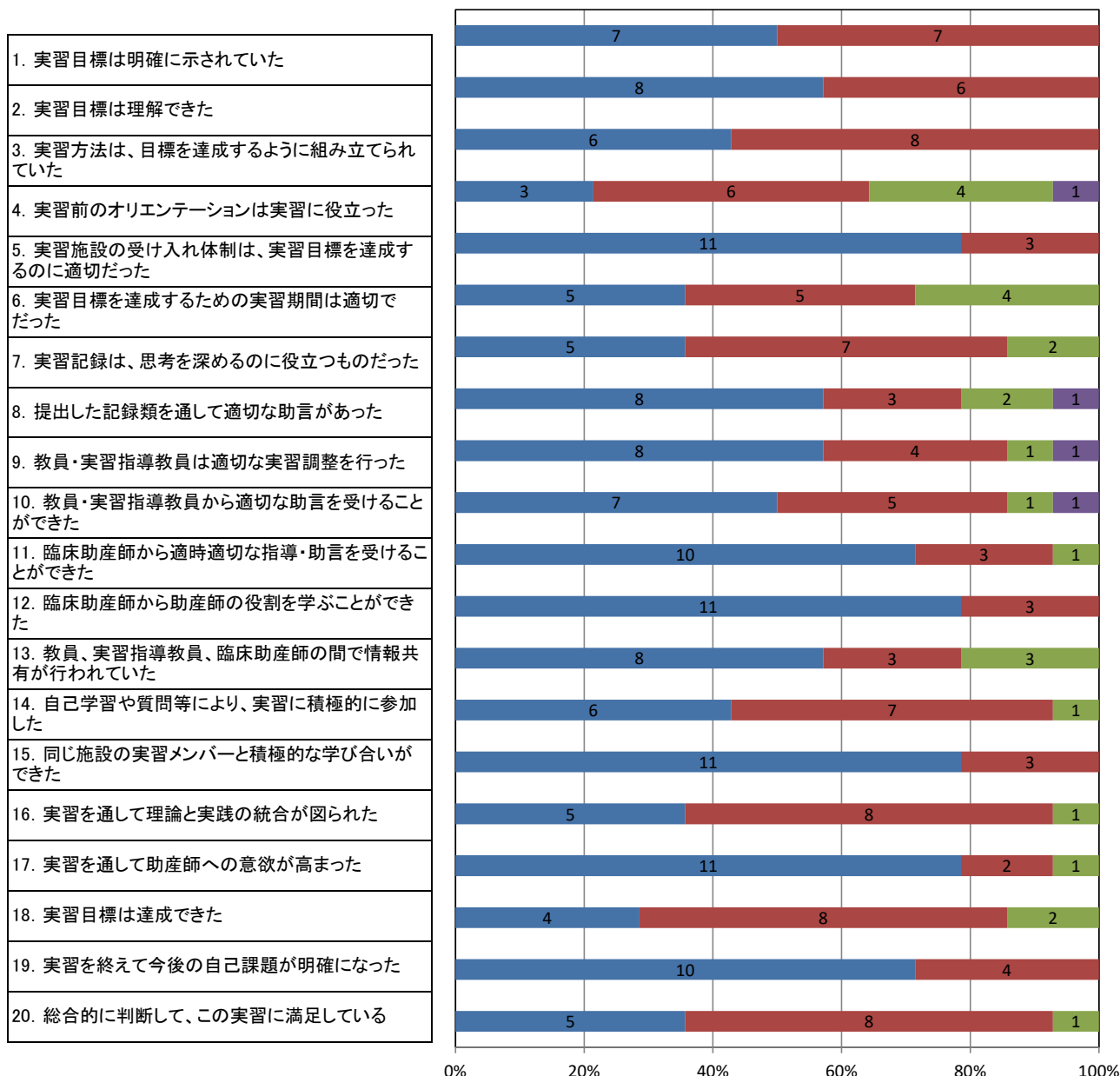
2021年度前期 授業評価アンケート結果集計表(助産研究科用)

天使大学

科目名	マタニティサイクル助産ケア基礎実習 I		
学科	助産研究科	履修者数	16人
学年	1年	回収数	14人
必修・選択の別	必修	回収率	87.5%

項目別回答分布

■ とてもそう思う ■ そう思う ■ どちらともいえない
■ そう思わない ■ 全くそう思わない ■ 無回答



自由記載に対するコメント
なし

結果全体に対するコメント
 実習期間については、コロナ感染症の影響で実習できない期間があったため、このような結果となっていると思われる。教員の適切な指導・助言8・10や実習調整について”どちらともいえない・そう思わない”があり、これが16~20にも影響をしてくるものと考えられるので、充実した指導ができるようにする。実習前オリエンテーションが実習に役立ったかについて、どちらとも言えない~そう思わないがあり、わかりやすいオリエンテーションとしていく必要がある。

2021年度前期 授業評価アンケート結果集計表(助産研究科用)

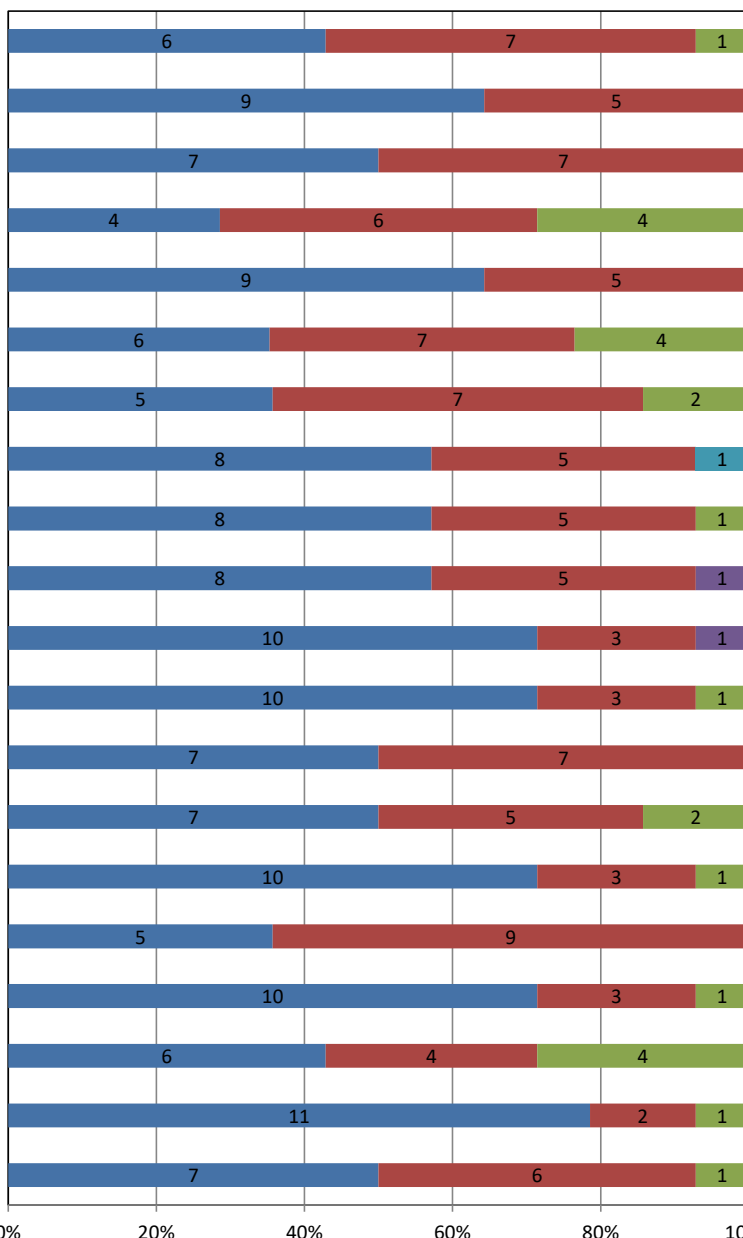
天使大学

科目名	マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅱ		
学科	助産研究科	履修者数	16人
学年	1年	回収数	14人
必修・選択の別	必修	回収率	87.5%

項目別回答分布

■ とてもそう思う ■ そう思う ■ どちらともいえない
■ そう思わない ■ 全くそう思わない ■ 無回答

1. 実習目標は明確に示されていた
2. 実習目標は理解できた
3. 実習方法は、目標を達成するように組み立てられていた
4. 実習前のオリエンテーションは実習に役立った
5. 実習施設の受け入れ体制は、実習目標を達成するのに適切だった
6. 実習目標を達成するための実習期間は適切だった
7. 実習記録は、思考を深めるのに役立つものだった
8. 提出した記録類を通して適切な助言があった
9. 教員・実習指導教員は適切な実習調整を行った
10. 教員・実習指導教員から適切な助言を受けることができた
11. 臨床助産師から適時適切な指導・助言を受けることができた
12. 臨床助産師から助産師の役割を学ぶことができた
13. 教員、実習指導教員、臨床助産師の間で情報共有が行われていた
14. 自己学習や質問等により、実習に積極的に参加した
15. 同じ施設の実習メンバーと積極的な学び合いができた
16. 実習を通して理論と実践の統合が図られた
17. 実習を通して助産師への意欲が高まった
18. 実習目標は達成できた
19. 実習を終えて今後の自己課題が明確になった
20. 総合的に判断して、この実習に満足している



自由記載に対するコメント
なし

結果全体に対するコメント
 実習期間については、コロナ感染症の影響で実習できない期間があったため、このような結果となったと思われる。全員が実習を通して理論と実践の統合が図られたことは良かった。1名が、教員・スタッフの適切な指導・助言8・10・11に対して”そう思わない・全くそう思わない”としており、これが17～20に影響を与えていると考えられるので、充実した指導となるようにしていく。実習前オリエンテーションが実習に役立ったかについて、どちらともいえないがあり、わかりやすいオリエンテーションとしていく必要がある。

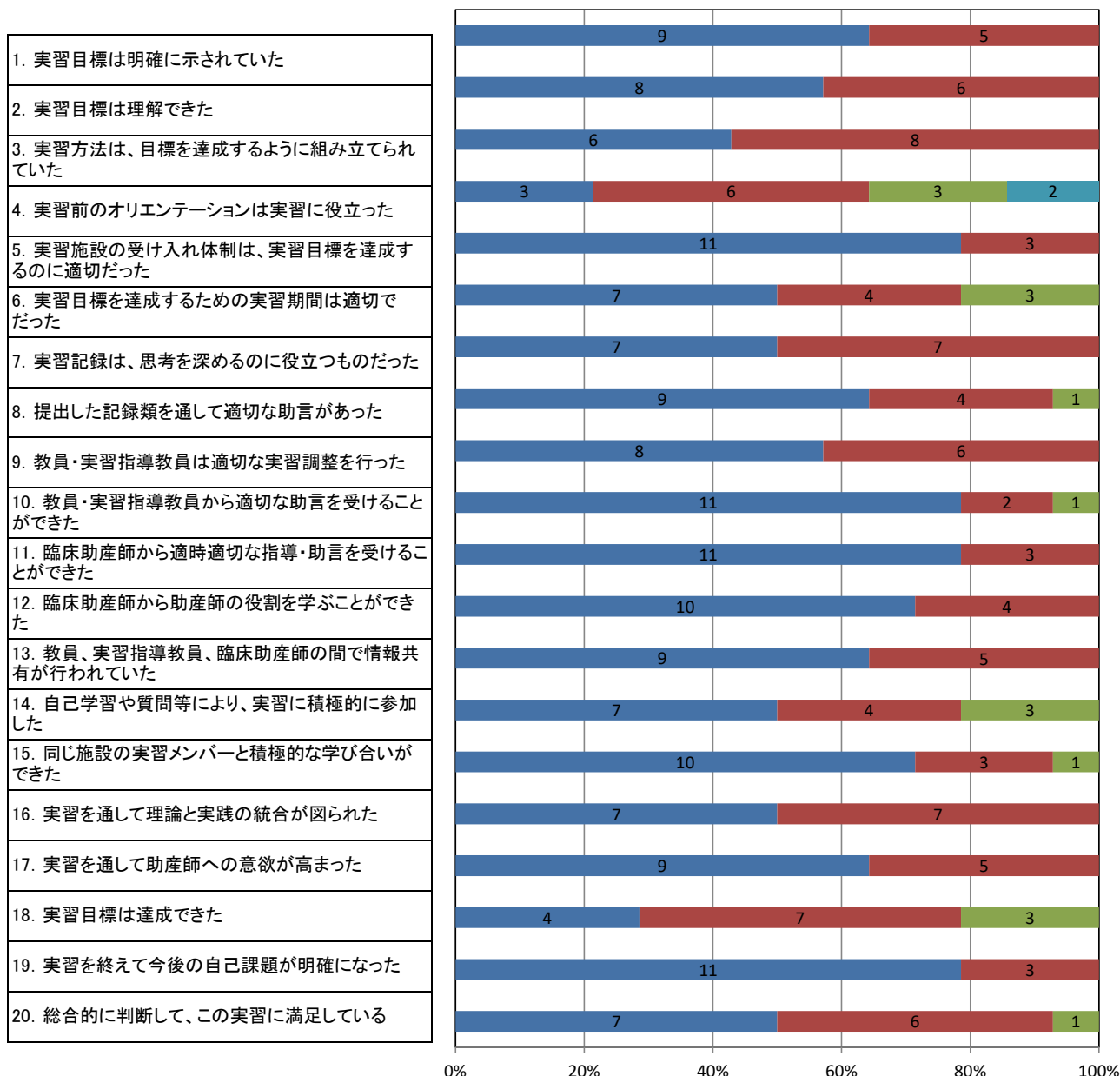
2021年度前期 授業評価アンケート結果集計表(助産研究科用)

天使大学

科目名	マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅲ		
学科	助産研究科	履修者数	16人
学年	1年	回収数	14人
必修・選択の別	必修	回収率	87.5%

項目別回答分布

■ とてもそう思う ■ そう思う ■ どちらともいえない
■ そう思わない ■ 全くそう思わない ■ 無回答



自由記載に対するコメント
 コロナ感染症の影響で、一部学内実習となったが、「ケアなどは実践できなかったが、助産過程の練習になり思考過程を整理することができた。」とのコメントがあり、助産実践に向けた有効な演習となっていたととらえる。

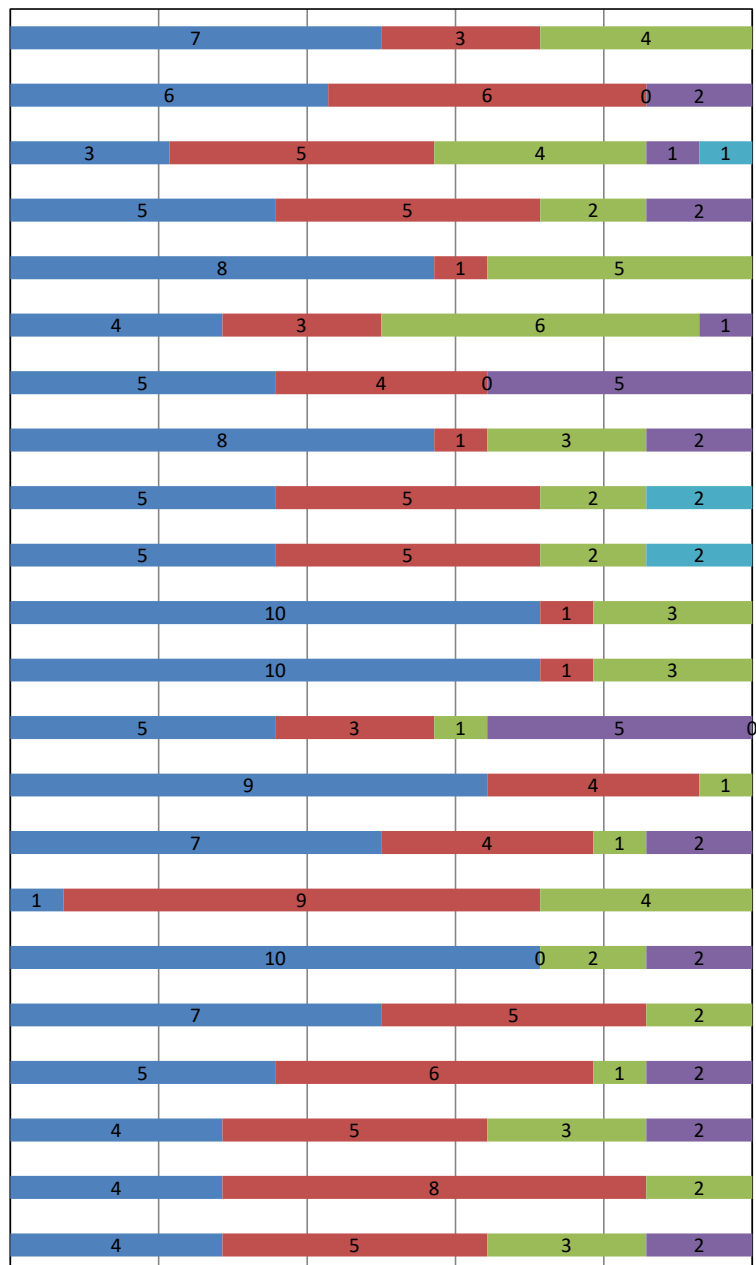
結果全体に対するコメント
 実習目標は達成できたに、そう思わないはいない。全員が、実習を通して理論と実践の統合が図れた16、自己課題が明確になった19、助産師への意欲が高まった17、としており、基礎実習としての目的が果たせる実習であったと考える。実習前オリエンテーションが実習に役立ったかについて、どちらともいえない〜そう思わないがあり、わかりやすいオリエンテーションとしていく必要がある。

科目名	マタニティサイクル独立助産実習		
学科	助産研究科	履修者数	16人
学年	1年	回収数	14人
必修・選択の別	必修	回収率	87.5%

項目別回答分布

■ とてもそう思う ■ そう思う ■ どちらとも言えない ■ そう思わない ■ 全くそう思わない

1. 実習要項の内容は、実習ガイドとして必要な事項が記載されていた
2. 実習目標は明確に示されていた
3. 実習方法は、目標を達成できるように組み立てられていた
4. 実習施設の受け入れ態勢は、適切であった
5. 実習の期間(6週間)は適切であった
6. 実習記録は体験や思考を深めるために役立つものだった
7. 実習で要求される事例数は適切であった
8. 助産院助産師から、適宜適切な指導・助言を受けた
9. 助産院助産師と教員の間で情報共有がなされていた
10. 実習により理論と実践の統合がはかれた
11. 実習により、新しい知識、考え方を習得できた
12. 実習により、助産技術を向上できた
13. 実習により、専門的好奇心(助産師としての知識・技術・態度面の研鑽)が刺激された
14. 実習には積極的に取り組んだ
15. 実習の中間カンファレンスは有意義だった(あった方がよい)
16. 実習終了時のカンファレンスは有意義だった(あった方がよい)
17. 実習により、今後の自己課題が明確になった
18. 実習中の体調・健康管理は適切にできた
19. 実習中の体調・健康管理は適切にできた
20. 実習中の体調・健康管理は適切にできた
21. 実習中の体調・健康管理は適切にできた
22. 実習中の体調・健康管理は適切にできた



0% 20% 40% 60% 80% 100%

自由記載に対するコメント

実習施設により、ローリスクの妊産褥婦の人数に違いがあり、実習施設の配置によって事例数にばらつきがある。学習機会を保証するために、今後はさらに実習の全体的な進捗状況を把握し、適宜、施設側と相談、調整を図っていきたい。

結果全体に対するコメント

臨地実習の場がなければ学修できない項目「実習により、新しい知識、考え方を習得できた」「実習により、助産技術を向上できた」「今後の自己課題が明確になった」について約7割の院生が高評価をしている。また、多くの院生が、コロナ禍の中、体調管理を行い、積極的に実習に取り組んでいたことがアンケートから確認できた。

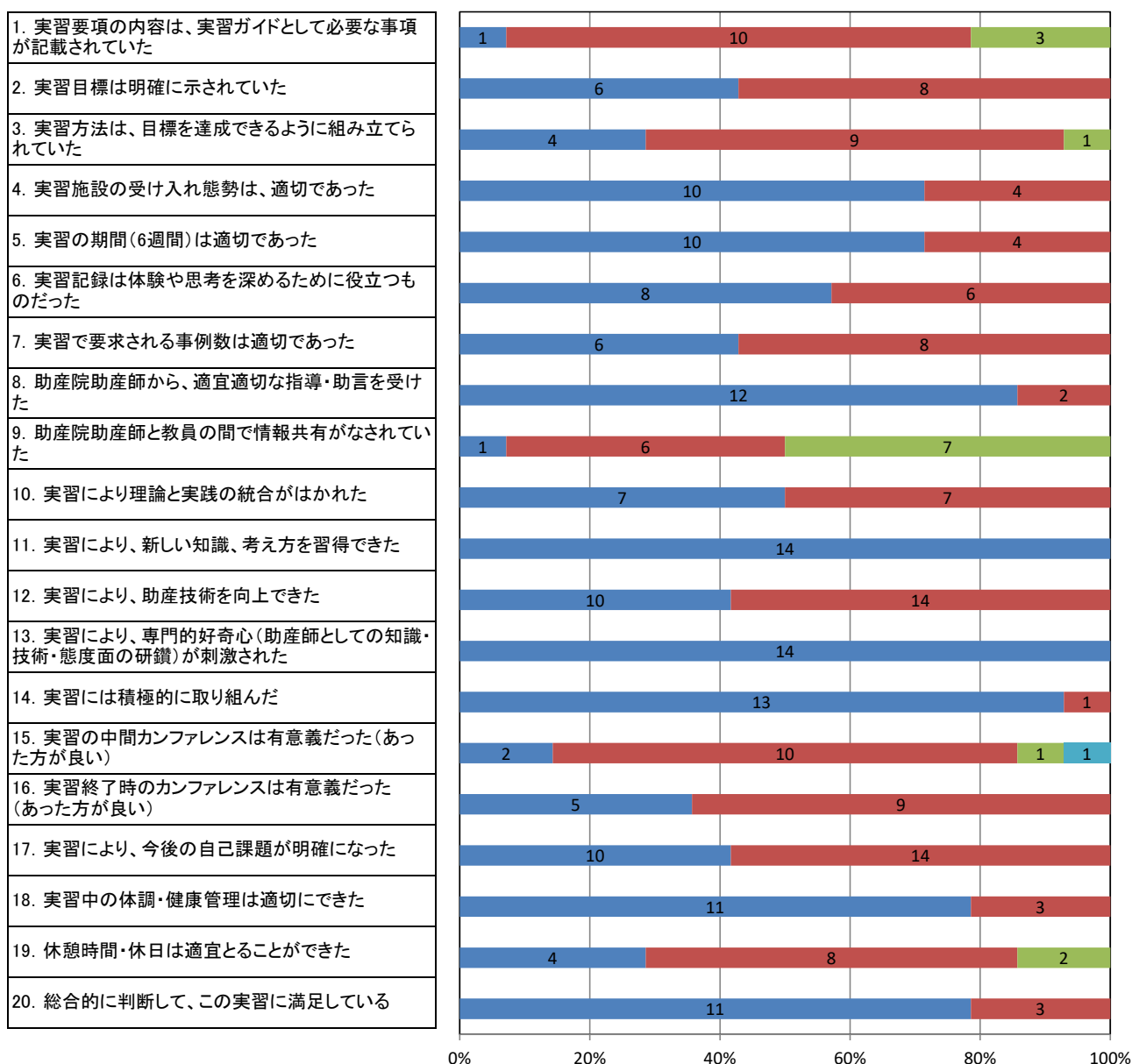
2021年度前期 授業評価アンケート結果集計表(助産研究科用)

天使大学

科目名	マタニティサイクル独立助産実習		
学科	助産研究科	履修者数	19人
学年	2年	回収数	14人
必修・選択の別	必修	回収率	73.7%

項目別回答分布

■ とてもそう思う ■ そう思う ■ そう思わない ■ 全くそう思わない ■ 無回答



自由記載に対するコメント

提出する実習記録用紙がオリエンテーションの説明だけではわかりにくかったようだ。今後、要項に提出実習記録用紙をリストアップしたい。

結果全体に対するコメント

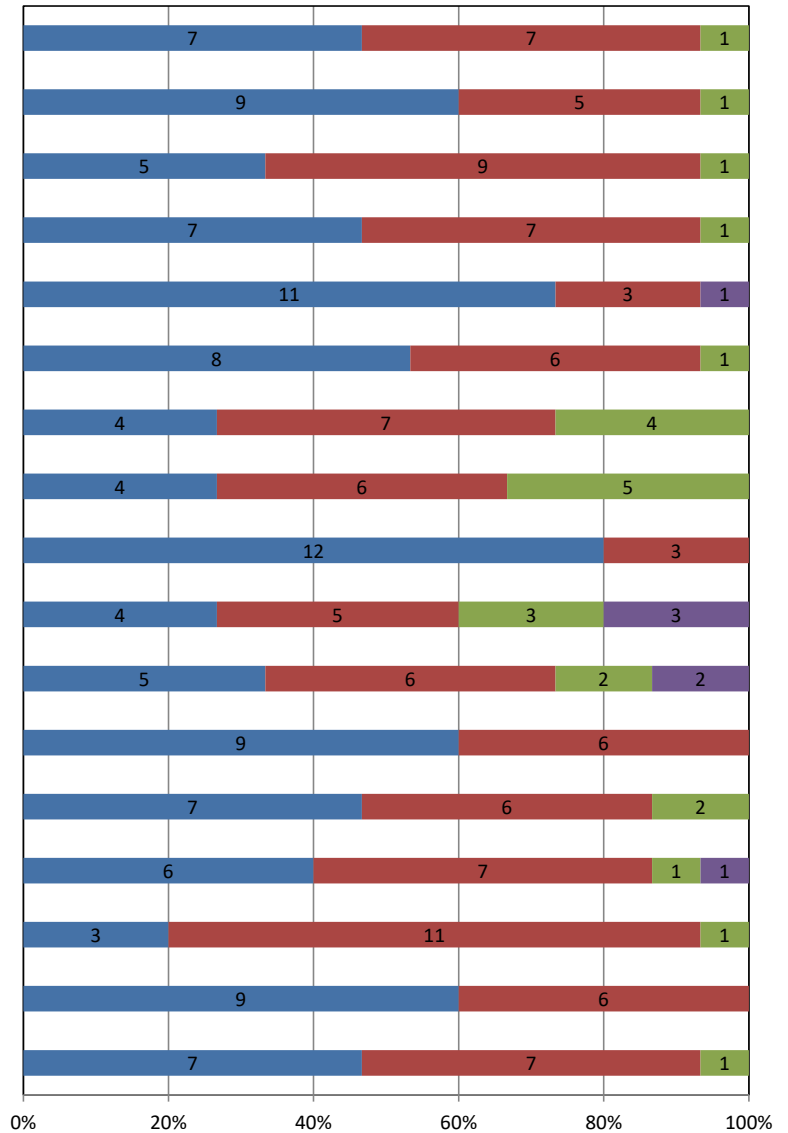
ほとんどの項目で高い評価となっている。助産院助産師と教員の情報共有がなされていない、との評価が50%ある。今回、コロナ禍にあり、実習施設助産師と対面での実習打ち合わせができなかったこと、新規実習施設が2か所あり、実習開始後にも、施設助産師と教員間で相談等打合せを行ったことが関係していると思われる。

科目名	マタニティサイクル助産ケア統合実習Ⅱ		
学科	助産研究科	履修者数	19人
学年	2年	回収数	15人
必修・選択の別	必修	回収率	78.9%

項目別回答分布

■ とてもそう思う ■ そう思う ■ どちらともいえない
■ そう思わない ■ 全くそう思わない ■ 無回答

1. 実習目標は明確に示されていた
2. 実習目標は理解できた
3. 実習方法は、目標を達成するように組み立てられていた
4. 実習前のオリエンテーションは実習に役立った
5. 実習施設の受け入れ体制は、実習目標を達成するのに適切だった
6. 実習目標を達成するための実習期間は適切だった
7. 実習記録は、思考を深めるのに役立つものだった
8. 提出した記録類を通して適切な助言があった
9. 臨床助産師から適切な助言を受けることができた
10. 教員、臨床助産師との間で情報共有がなされていた
11. 教員から適切な助言を受けることができた
12. 自己学習や質問等により実習に積極的に参加した
13. 実習終了カンファレンスは適切(時間・内容)だった
14. 実習で要求される内容(受け持ち人数、メンバー役割)は適切だった
15. 実習目標は達成できた
16. 実習を終えて今後の自己課題が明確になった
17. 総合的に判断して、この実習に満足している



自由記載に対するコメント
 オリエンテーション、カンファレンスの持ち方等、実習での学びがさらに充実するような工夫を重ねていく。

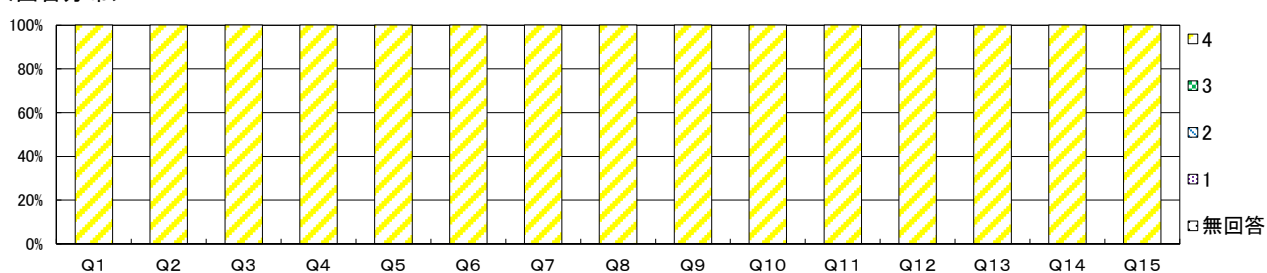
結果全体に対するコメント
 大学教員と臨床指導スタッフとのより密な連携を心掛け、実習記録のフィードバック方法を検討していく。

科目名	(500028) 40000272F13100100 子育て支援論 I		
学科	助産研究科	履修者数	16人
学年	1	回収数	1人
必修・選択の別	必修	回収率	6.3%

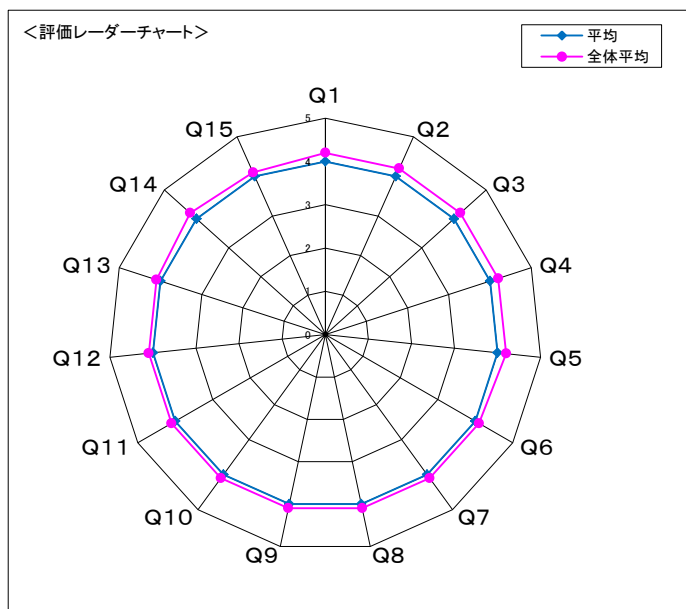
項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
2. 授業の構成は体系的に行われていた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
3. 授業の時間数は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
4. 授業の進行は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1

<回答分布>



<評価レーダーチャート>



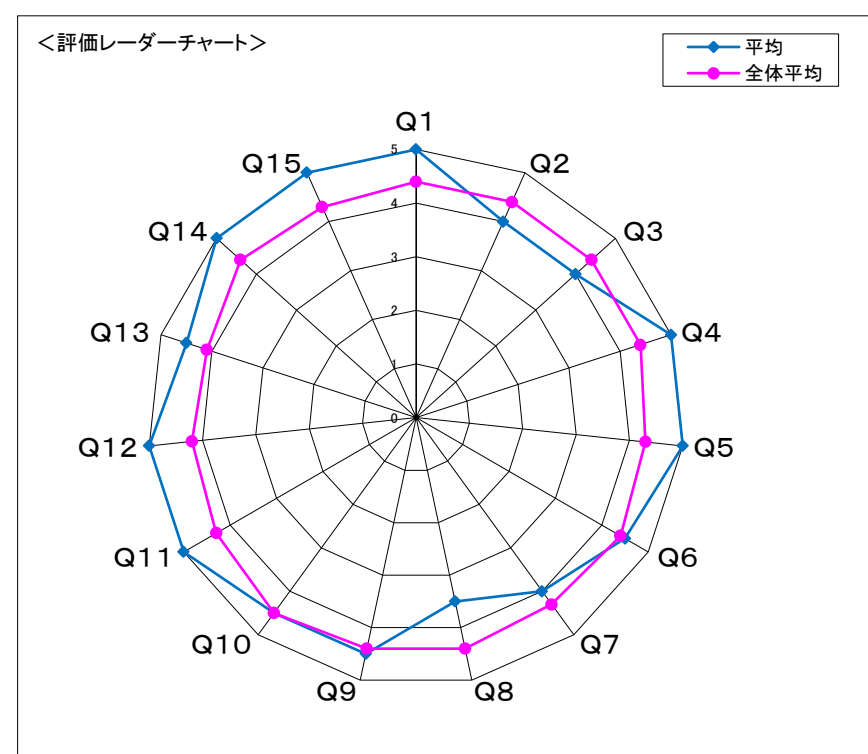
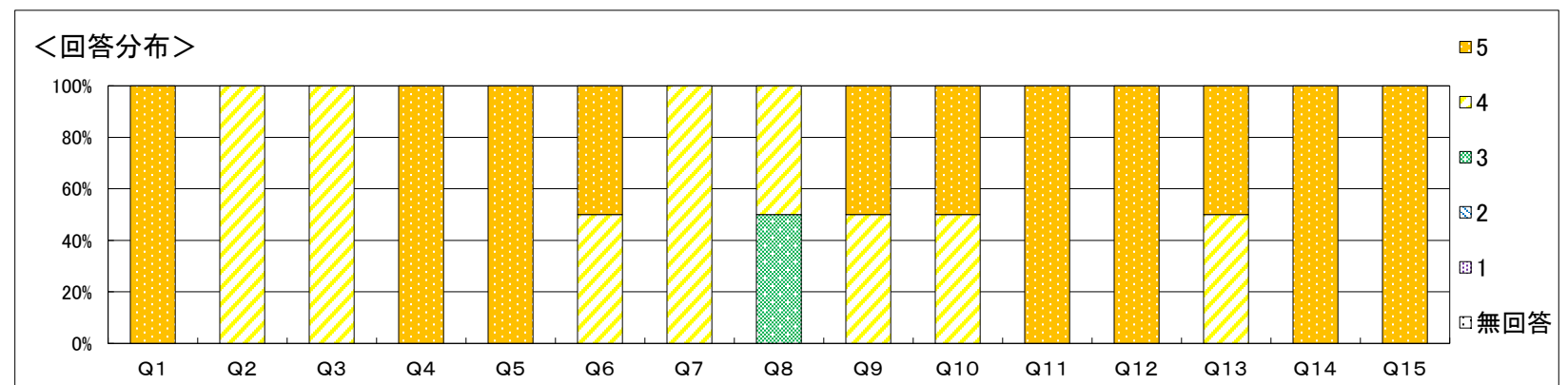
自由記載に関するコメント

結果全体に対するコメント
 回答者が1名ということから全体コメントはできない。逆に「1・2(そう思わない)」の回答がないことから、現状更新とする。

科目名	(500016) 4000162F13100400 性教育 I		
学科	助産研究科	履修者数	19人
学年	基礎2年	回収数	2人
必修・選択の別	必修	回収率	10.5%

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	2	0	0	0	-	0	5.0	4.4
2. 授業の構成は体系的に行われていた	0	2	0	0	-	0	4.0	4.4
3. 授業の時間数は適切だった	0	2	0	0	-	0	4.0	4.4
4. 授業の進行は適切だった	2	0	0	0	-	0	5.0	4.4
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	2	0	0	0	-	0	5.0	4.3
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	1	1	0	0	-	0	4.5	4.4
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	0	2	0	0	-	0	4.0	4.3
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	0	1	1	0	-	0	3.5	4.4
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	1	1	0	0	-	0	4.5	4.4
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	1	1	0	0	-	0	4.5	4.5
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	2	0	0	0	-	0	5.0	4.3
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	2	0	0	0	-	0	5.0	4.2
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	1	1	0	0	-	0	4.5	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	2	0	0	0	-	0	5.0	4.4
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	2	0	0	0	-	0	5.0	4.3



自由記載に関するコメント
 長期間にわたる臨地実習もあり、プレゼンテーション課題の準備は大変だったと思いますが、皆さんが積極的に取り組んだことで、有意義な学習成果共有の機会となりました。

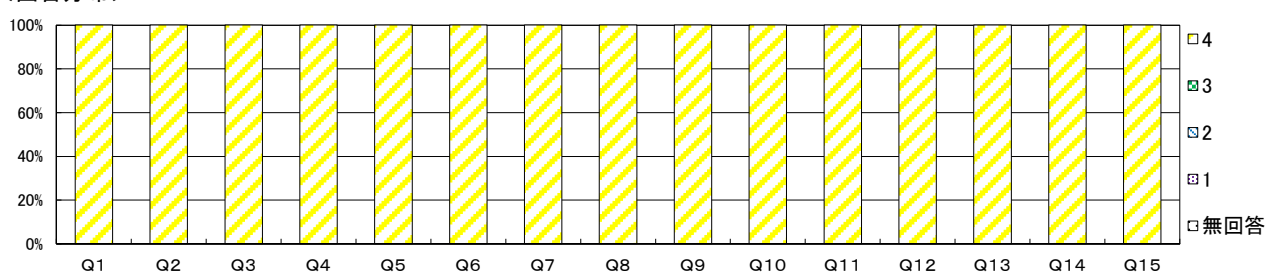
結果全体に対するコメント
 今年度は、コロナ禍の影響で授業配置が1週間ほどの短期集中となったため、レポート課題の提示から提出までの期間が短く、取り組みに際し、実習配置の影響を強く受ける学生もいました。学生が授業の目標達成に向けた調整を適切に行い取り組めるよう、授業配置、課題の内容・提示の仕方・時期を検討します。

科目名	(500029) 40000282F13100700 ウィメンズヘルス I		
学科	助産研究科	履修者数	16人
学年	1	回収数	1人
必修・選択の別	必修	回収率	6.3%

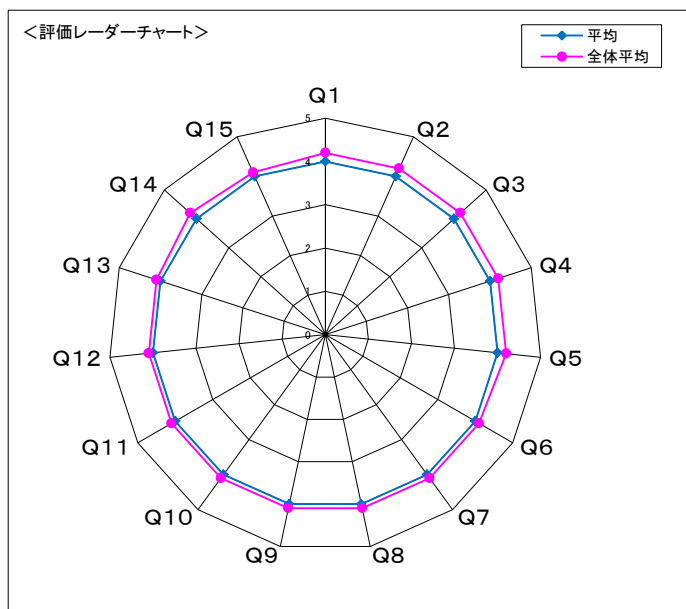
項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
2. 授業の構成は体系的に行われていた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
3. 授業の時間数は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
4. 授業の進行は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1

<回答分布>



<評価レーダーチャート>



自由記載に関するコメント

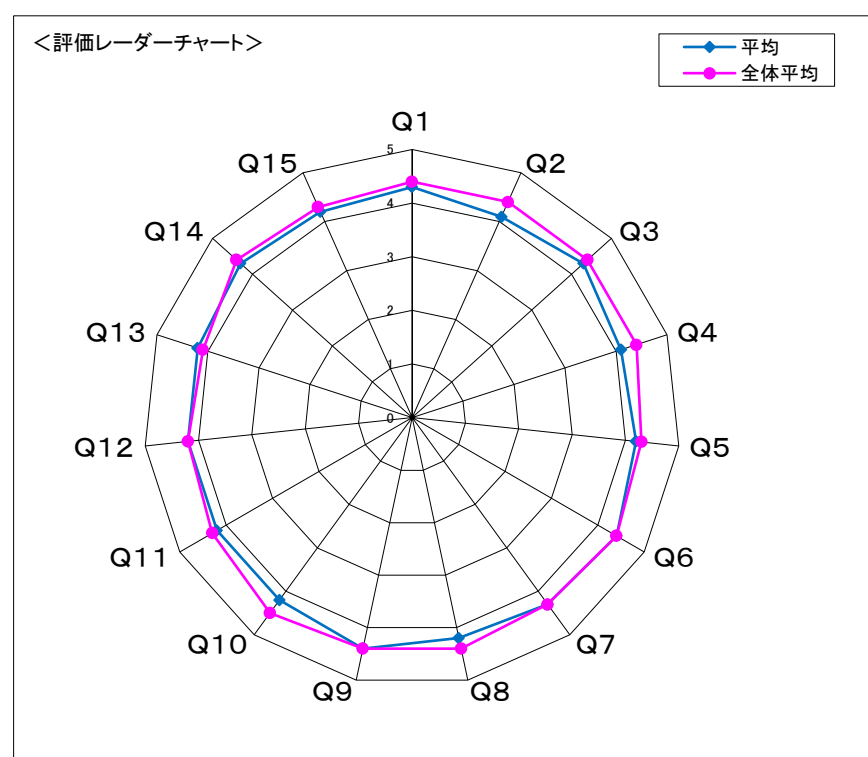
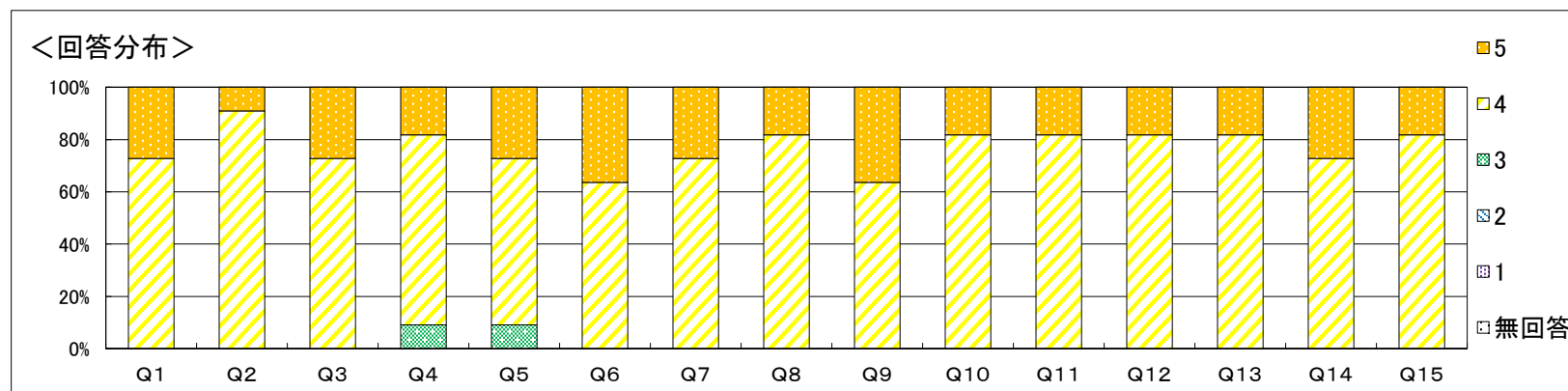
結果全体に対するコメント

・不妊治療、DV、女性生殖器に疾患など、女性が社会でどう扱われているか、扱われてきたかということが、女性の健康に影響することが学べたのではないかと思います。子宮頸がんについて、最新の情報も授業で知ることができ、学生自身の健康についても考えるきっかけになったのではないだろうか。

科目名	(500017) 4000172F131001000 国際助産学 I		
学科	助産研究科	履修者数	19人
学年	基礎2年	回収数	11人
必修・選択の別	必修	回収率	57.9%

項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	3	8	0	0	-	0	4.3	4.4
2. 授業の構成は体系的に行われていた	1	10	0	0	-	0	4.1	4.4
3. 授業の時間数は適切だった	3	8	0	0	-	0	4.3	4.4
4. 授業の進行は適切だった	2	8	1	0	-	0	4.1	4.4
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	3	7	1	0	-	0	4.2	4.3
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	4	7	0	0	-	0	4.4	4.4
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	3	8	0	0	-	0	4.3	4.3
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	2	9	0	0	-	0	4.2	4.4
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	4	7	0	0	-	0	4.4	4.4
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	2	9	0	0	-	0	4.2	4.5
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	2	9	0	0	-	0	4.2	4.3
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	2	9	0	0	-	0	4.2	4.2
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	2	9	0	0	-	0	4.2	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	3	8	0	0	-	0	4.3	4.4
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	2	9	0	0	-	0	4.2	4.3



自由記載に関するコメント

複数の自由記載では、海外の母子保健についての情報や知識だけではなく、医療や母子保健に関わる国際的な組織・団体を知り、その具体的な活動を学修できたことを高評価していた。

結果全体に対するコメント

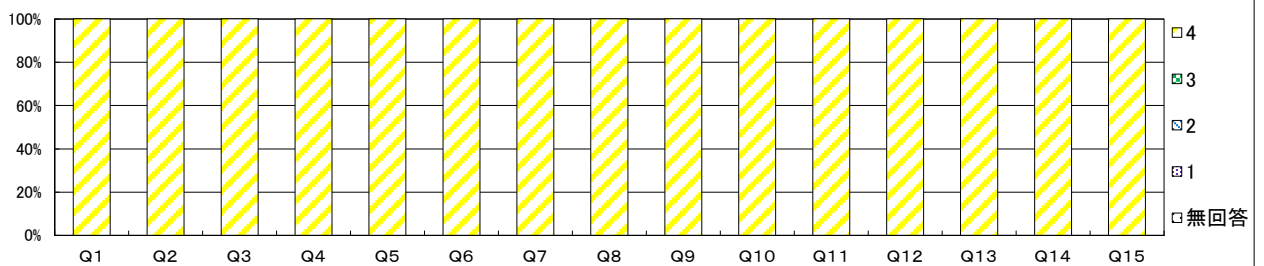
集計点は、全体平均をやや下回っているものの、全質問項目が4点台であり、関心をもって学修し新たな知見を得られた授業と評価していると考えます。視聴覚教材については高評価であった。今後は、授業の構成や進行をさらに工夫をし、学修効果を高めていきたい。

科目名	(500030) 40000292F14100100 特別統合課題研究		
学科	助産研究科	履修者数	19人
学年	2	回収数	1人
必修・選択の別	必修	回収率	5.3%

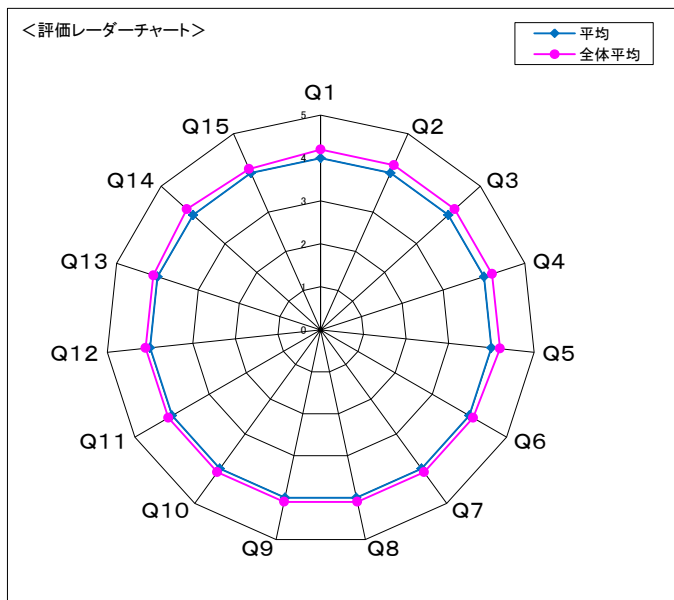
項目別回答分布(人数と平均値)

	5	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
1. シラバスには、授業の概要・目標等が明確に記載されていた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
2. 授業の構成は体系的に行われていた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
3. 授業の時間数は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
4. 授業の進行は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
5. 授業方法、形態(対話・討論型授業、グループワークなど)は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
6. 視聴覚教材(黒板、パワーポイント、ビデオ、プリントなど)は理解の促進に効果的だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
7. 授業内容はわかりやすく説明されていた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
8. 授業で要求される作業量(レポート、宿題など)は適切だった	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
9. 教員は効果的に院生の参加(発言、自己学習、作業など)を促した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
10. 教員は院生の質問・発言等に適切に対応した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
11. 自分は授業に質問・発言など積極的な態度で参加した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
12. 自分は指定図書を活用し、授業に参加した	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
13. 自分は授業の事前・事後学習(課題を含む)を行った	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1
14. 自分は授業により、新しい知識、考え方、技能を習得できた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.2
15. 自分は授業の履修目標は達成できた	0	1	0	0	-	0	4.0	4.1

<回答分布>



<評価レーダーチャート>



自由記載に関するコメント

自由記載なし

結果全体に対するコメント

16名中2名の解答であり、コメントできるものではない。しかし、2名は全て4以上であり、2・1の不満の評価はなく満足してもらえたと捉え、今年度以上に良い授業ができるように努める。今後の学会等の発表にもつなげることができるように、倫理審査を含め、実践に役立つ研究方法が身につくように指導する。